野々市市北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書5

三日市A遺跡4

2012

石川県野々市市教育委員会

三日市（みっかいち）A遺跡4

2012

石川県野々市市教育委員会

例　言

1　本書は、三日市A遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2　遺跡の所在地は、石川県野々市市三日市町地内である。
3　調査原因は、野々市市北西部土地区画整理事業にともなうものである。
4　調査は、野々市市北西部土地区画整理組合からの依頼を受けて野々市市教育委員会が実施した。
5　調査にかかる費用は、野々市市北西部土地区画整理組合が負担した。
6　現地調査の年度・期間・面積・担当者は以下のとおりである。

平成13年度　第3次
　期　間　　平成13年11月8日～平成14年3月26日
　面　積　　1,200㎡
　担当者　　横山貴広　野々市町教育委員会文化課　主査
平成14年度　第5次
　期　間　　平成14年5月9日～平成14年7月5日
　面　積　　750㎡
　担当者　　徳野裕子　野々市町教育委員会文化課　主査
平成15年度　第10次
　期　間　　平成15年4月2日～平成15年5月7日
　面　積　　792㎡
　担当者　　横山貴広
平成15年度　第11次
　期　間　　平成15年7月9日～平成15年8月31日
　面　積　　550㎡
　担当者　　横山貴広
平成17年度　第18次
　期　間　　平成17年4月14日～平成17年9月25日
　面　積　　2,256㎡
　担当者　　横山貴広　野々市町教育委員会文化振興課　専門員
平成18年度　第25次
　期　間　　平成18年4月12日～平成18年10月13日
　面　積　　3,451㎡
　担当者　　横山貴広

7　出土品整理は平成15年度～平成23年度に野々市市教育委員会が実施した。
8　報告書の刊行は平成23年度に野々市市教育委員会文化振興課が実施した。担当分担は以下のとおりである。
　第1章　第2章　　田村昌宏（野々市市教育委員会　専門員）
　第4章　　徳野裕子
　第3章　第5章　第6章　第7章　第8章　　横山貴広
9　現地調査から出土品整理、報告書刊行に至るまでに、野々市市北西部土地区画整理組合、柿田祐司の協力を得た。（敬称略）
10　本書についての凡例は以下のとおりである。
　(1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
　(2) 水平基準は海抜高であり、T．P．（東京湾平均海面標高）による。
　(3) 出土遺物番号は、本文・観察表・挿図・写真に対応する。
　(4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
　(5) 土層図の注記は、農林水産省農林水産技術会事務局・財団法人　日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』に拠った。
　(6) 遺構名称の略号は以下のとおりである。
　　掘立柱建物：ＳＢ　　竪穴建物：ＳＩ　　土坑：ＳＫ　　溝：ＳＤ　　小穴：Ｐ
11　調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。
12　例言、本文中に記載されている野々市町の名称は、2011年11月11日の市制施行に伴い、現在は野々市市となっている。

目　次

第1章　調査の経緯 …… 1

第2章　遺跡の位置と環境 …… 3
　第1節　地理的環境 …… 3
　第2節　歴史的環境 …… 3
　第3節　基本層序 …… 6

第3章　第3次調査 …… 7
　第1節　調査の経過 …… 7
　第2節　遺構 …… 7
　第3節　小結 …… 8

第4章　第5次調査 …… 12
　第1節　調査の経過 …… 12
　第2節　遺構 …… 13
　第3節　遺物 …… 18
　第4節　小結 …… 18

第5章　第10次調査 …… 20
　第1節　調査の経過 …… 20
　第2節　遺構 …… 20
　第3節　小結 …… 20

第6章　第11次調査 …… 21
　第1節　調査の経過 …… 21
　第2節　遺構 …… 21
　第3節　遺物 …… 21
　第4節　小結 …… 21

第7章　第18次調査 …… 28
　第1節　調査の経過 …… 28
　第2節　遺構 …… 28
　第3節　遺物 …… 28
　第4節　小結 …… 28

第8章　第25次調査 …… 52
　第1節　調査の経過 …… 52
　第2節　遺構 …… 52
　第3節　遺物 …… 52
　第4節　小結 …… 52

挿図目次

第1図　北西部土地区画整理事業地区
　遺跡位置図 …… 1
第2図　調査区位置図 …… 2
第3図　野々市市位置図 …… 3
第4図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 5
第5図　土層断面模式図 …… 6
第6図　SK01・02遺構図・土層断面図 … 9
第7図　SP01～07遺構図・土層断面図 … 10
第8図　SD01・02土層断面図 …… 11
第9図　SB01・SK01遺構図・土層断面図
　SD06土層断面図 …… 14
第10図　SD04・SD05土層断面図 …… 15
第11図　三日市A遺跡（第5次）
　遺構平面図 …… 16・17
第12図　出土遺物実測図 …… 19
第13図　C1区S101・02
　遺構図・土層断面図 …… 22
第14図　C1区SD・畝溝・SK土層断面図
　…… 23
第15図　C2区SK01～06
　遺構図・土層断面図 …… 24
第16図　出土遺物実測図 …… 26
第17図　3区SB01遺構図・上層断面図 … 29
第18図　3区SB02遺構図・断面図 …… 30
第19図　3区SB02土層断面図 …… 31
第20図　3区SB03遺構図・断面図 …… 32
第21図　3区SB04遺構図・断面図 …… 33
第22図　3区SB05遺構図・断面図 …… 34
第23図　1区SB06遺構図・断面図 …… 35
第24図　2区SB07・4区SB08
　遺構図・断面図 …… 36
第25図　6区SB09・SB10遺構図・断面図
　…… 37
第26図　8区SB11遺構図・断面図 …… 38
第27図　8区SB12遺構図・断面図 …… 39
第28図　8区SB13遺構図・断面図 …… 40
第29図　8区SB14遺構図・土層断面図 … 41
第30図　9区SB15・10区SB16
　遺構図・土層断面図 …… 42
第31図　9区S101・02
　遺構図・土層断面図 …… 43
第32図　10区S103遺構図・土層断面図 … 44
第33図　中央交差点区SK01・6区SK03
　遺構図・土層断面図 …… 45

第 34 図　7 区 SK04 ～ 07
　　遺構図・土層断面図 …… 46
第 35 図　出土遺物実測図 1 …… 49
第 36 図　出土遺物実測図 2 …… 50
第 37 図　1 区 S101 遺構図・土層断面図 … 54
第 38 図　1 区 S102 ・ 03
　　遺構図・土層断面図 …… 55
第 39 図　1 区 S104 遺構図・上層断面図 … 56
第 40 図　1 区 SK02 ・ 03
　　遺構図・土層断面図 …… 57
第 41 図　2 区 SB01 遺構図・上層断面図 … 58
第 42 図　2 区 SB02 ・ 03
　　遺構図・上層断面図 …… 59
第 43 図　2 区 SB04 ・ 05
　　遺構図・土層断面図 …… 60
第 44 図　2 区 SB06 遺構図・上層断面図 … 61
第 45 図　2 区 SB07 ・ S101
　　遺構図・上層断面図 …… 62
第 46 図　出土遺物実測図 1 …… 64
第 47 図　出土遺物実測図 2 …… 65
第 48 図　出土遺物実測図 3 …… 66
第 49 図　出土遺物実測図 4 …… 67

表 目 次

第 1 表　野々市市と周辺の遺跡 …… 6
第 2 表　出土遺物観察表 …… 19
第 3 表　出土石製品観察表 …… 19
第 4 表　遺構観察表 …… 25
第 5 表　出土遺物観察表 …… 27
第 6 表　掘立建物一覧表 1 …… 47
　　掘立建物一覧表 2 …… 48
第 7 表　出土遺物観察表 …… 51
第 8 表　遺構観察表 …… 63
第 9 表　出土遺物観察表 1 …… 68
　　出土遺物観察表 2 …… 69

図 版 目 次

写真図版 1 （第 3 次） …… 70
写真図版 2 （第 5 次） …… 71
写真図版 3 （第 5 次） …… 72
写真図版 4 （第 10 次） …… 73
写真図版 5 （第 11 次） …… 74
写真図版 6 （第 11 次） …… 75
写真図版 7 （第 18 次） …… 76
写真図版 8 （第 18 次） …… 77
写真図版 9 （第 18 次） …… 78
写真図版 10 （第 25 次） …… 79
写真図版 11 （第 25 次） …… 80
写真図版 12 （第 25 次） …… 81
写真図版 13 （第 25 次） …… 82

第1章　調査の経緯

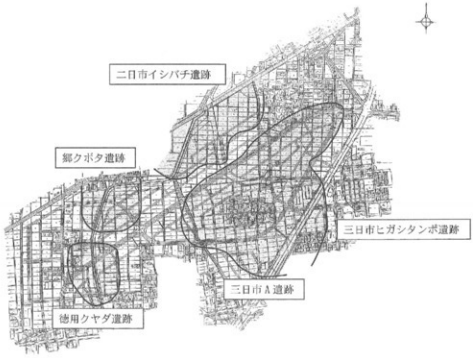
本書収録の三日市A遺跡が所在する野々市市北西部地域は、整然とした水田が広がる農業振興地域であった。しかし、近年における周辺地域の都市化に伴い、本地域も住生活環境の変化が必要となり宅地化の促進が図られることになった。そこで、平成11年に野々市町北西部土地区画整理事業が施行されることが決定した。

北西部土地区画整理施行区域65.4ha内には、埋蔵文化財の存在する可能性があり、詳細な確認調査を行う必要が生じた。そこで、平成11年8月25日付で野々市町産業建設部長から野々市町教育委員会教育長宛に土地区画整理事業区域内の埋蔵文化財の分布調査についての依頼が出され、同年8月31日付けで同区域での分布調査を行う旨の回答をした。これに基づき、北西部土地区画整理施行区域内に試掘坑352箇所を設定し、宅地化など掘削作業できない箇所を除いた337箇所を、同年9月27日～10月19日にかけて試掘調査を実施した。その結果、以前より存在が確認されていた二日市イシバチ遺跡の南側の範囲が確定したほか、新たに三日市ヒガシタンボ遺跡、三日市A遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡を発見した。

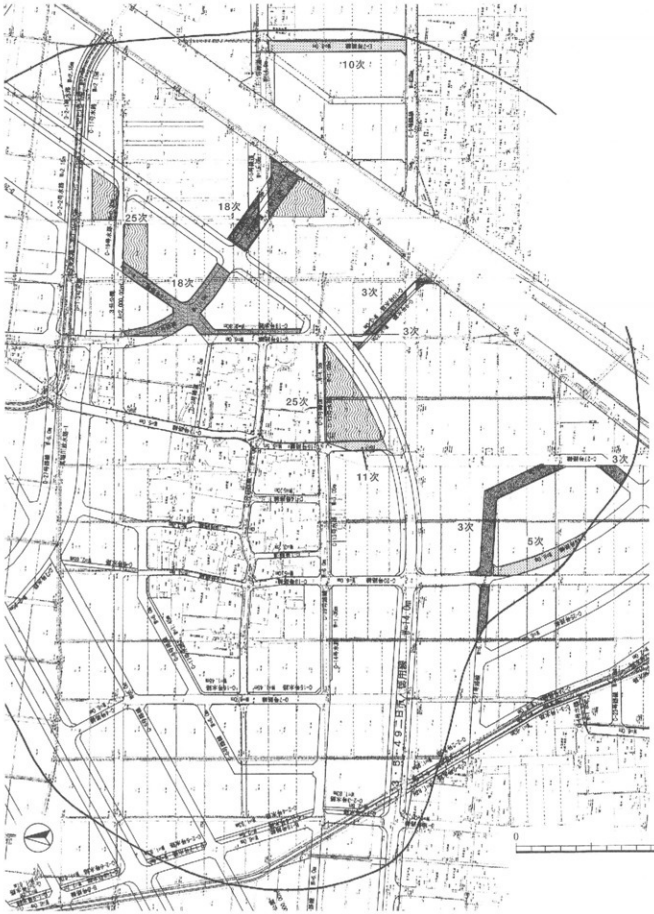
この結果から、野々市町北西部土地区画整理組合、野々市町都市計画課、野々市町教育委員会と協議を重ね、埋蔵文化財包蔵地のうち、道路等恒久化する工事箇所と、民有地内で十分な遺跡の保護層が確保できない箇所については、発掘調査を行うことで合意した。平成12年4月13日付で、野々市町と野々市町北西部土地区画整理組合との間で野々市町北西部土地区画整理事業地区内埋蔵文化財に関する協定書が交わされた。

北西部土地区画整理組合から文化庁長官宛に提出される二日市イシバチ遺跡、三日市ヒガシタンボ遺跡、三日市A遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡に関する文化財保護法第57条の3に基づく届出は、平成12年3月29日付で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会教育長宛に進達した。これを受けて、同年3月30日付で石川県教育委員会教育長から野々市町教育委員会教育長宛に埋蔵文化財発掘調査の届出に関する通知がなされた。

以上の手続きを終えて、平成13年度より上記5遺跡の発掘調査が開始された。



第1図　北西部土地区画整理事業地区遺跡位置図



第２図　調査区位置図（S=1/2500）

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

野々市市は石川県のほぼ中央、石川平野の要地に位置する。市の大きさは南北約 6.7km、東西 4.5km で、県内で最も面積の小さい自治体である。市域は霊峰白山を源とする県下第一級河川手取川によって形成された手取川扇状地の北東部にあたり、扇央部と扇端部の狭間に位置する。本市で最も高い標高地は 50 m、最も低い地点は 10 mで、なだらかな緩斜面となる地勢をみせている。

現在の野々市市は平坦な地形が広がっているが、従前は手取川から派生する多くの小河川によって形成された微高地と微低地が混在する地形であった。野々市で人々の生活が認められるのは縄文時代後期前半からで、集落の拠点は標高の高い微高地であった。この時代は扇状地の大部分が未開の原野で、ススキや低木が生い茂る荒地であったようである。これが稲作の伝わる弥生時代から石川平野の中で水田耕作が営まれるようになり、土地の開墾が始まっていった。古代以降、農耕具の発達などにより凸凹の多い土地は次々と開発されていき、未開発地は耕作地として生まれ変わっていった。明治時代以降は、田区改正による耕地整理が各地で急速に広がり、市内全域は起伏のない平坦な地形へと移り変わり、水田区画は碁盤目のように整然となった。このように、大きく広がった田園風景は、昭和 30 年代頃まで見られた。

第３図　野々市市位置図

しかし、昭和 40 年代の高度経済成長期以降は、県庁所在地金沢市の隣接地という地理的条件から、住宅地や商業施設の建設などが著しくなり、急速に水田風景は失われていった。特に、北部の御経塚地区や南部の三納・粟田・新庄地区は区画整理事業が進み、新興住宅地として生まれ変わっていった。今回、発掘調査箇所となる市域北西部地区も区画整理事業の一貫として行われており、周辺地は大きな変貌を遂げてきている。また、市内の東部には金沢工業大学、南部には石川県立大学といった教育機関が置かれ、若者が多く集う学園都市としての性格も持ち合わせている。

今回の発掘調査地である三日市Ａ遺跡は、標高約 15 mで、手取川から派生する小河川によって形成された微高地上に立地する。ただし、市域上流部と比較して、大きな川原石の堆積は少なく、微低地との高低差も大差ないことから、当時の生活拠点の場としては、非常に適した地であったと思われる。

第２節　歴史的環境

三日市Ａ遺跡周辺の遺跡を中心として、時代別に概観する。

縄文時代

本遺跡より北東方約 1 km 離れたところには国指定史跡となっている 6 御経塚遺跡が所在する。御経塚遺跡は、縄文時代後期中葉～弥生時代初頭にかけて営まれた地域における拠点集落である。当遺跡で発見された御経塚式土器は縄文時代晩期前半の基準資料となる。御経塚遺跡の近隣には、縄文時代後期後半～晩期後半の 1 チカモリ遺跡や縄文時代後期後半～晩期後半の 2 中屋サワ遺跡といった集落遺跡が点在し、御経塚遺跡の拠点集落を中心に展開した出村的な集落であったようである。これらの遺跡が存在する地点は標高 6 ～ 10 mに立地し、扇状地を伏流する地下水の湧水域であった。また、当時の生活に必要な落葉広葉樹と照葉樹が混在する豊かな林野が大きく広がっていた場所でもあったことから、この地帯は当時の人々にとって生活環境に最適な場であったようである。

本遺跡より南東約 2 km のところには、縄文時代晩期の 17 長竹遺跡がある。長竹遺跡は縄文晩期後半の基準資料となる土器が出土した遺跡で、水田稲作農耕が西日本に波及した極めて重要な時期である。なお、三日市Ａ遺跡及び御経塚遺跡からは、当該時期の稲籾の圧痕のついた土器が出土している。

弥生時代

手取川扇状地一帯における弥生時代の遺跡分布を見ると、前期～中期にかけては極めて少なく、後期に数多く存在する。御経塚遺跡（ツカダ地区）、15乾遺跡からは、柴山出村式と呼ばれる弥生時代前期の土器が確認されているが、この時期は弥生文化の波及が十分ではなく、まだ縄文文化の影響が強く残っていたようである。

弥生時代後期になると、鉄器の普及などを要因とする生産力の向上から人口が増え、それに伴い手取川扇状地一帯にも集落が展開するようになる。本遺跡をはじめ、周辺にある5御経塚シンデン遺跡、御経塚遺跡、7長池ニシタンボ遺跡、9二日市イシバチ遺跡、10郷クボタ遺跡、13三日市ヒガシタンボ遺跡、14徳丸ジョウジャダ遺跡などからは、竪穴建物や掘立柱建物などで構成される集落跡が見つかっている。これは、農耕社会が急速に広がったことから、安定した農耕地の確保が必要となったため、広範にわたってムラが形成していったと考えられる。

古墳時代

古墳時代前半については、本遺跡に隣接する二日市イシバチ遺跡で、弥生時代後期からの流れを汲む集落跡を確認することができるが、扇状地上での集落数は激減し、一旦収束傾向となる。ただし、本遺跡より北方1kmにある御経塚シンデン遺跡・御経塚シンデン古墳群では、弥生集落廃絶後に15基の前方後方墳、方墳からなる大古墳群を造立している。また、二日市イシバチ遺跡でも一辺約18mの規模を中心とした大小の方墳7基を確認しており、各地域を治める首長層の存在を伺い知ることができる。

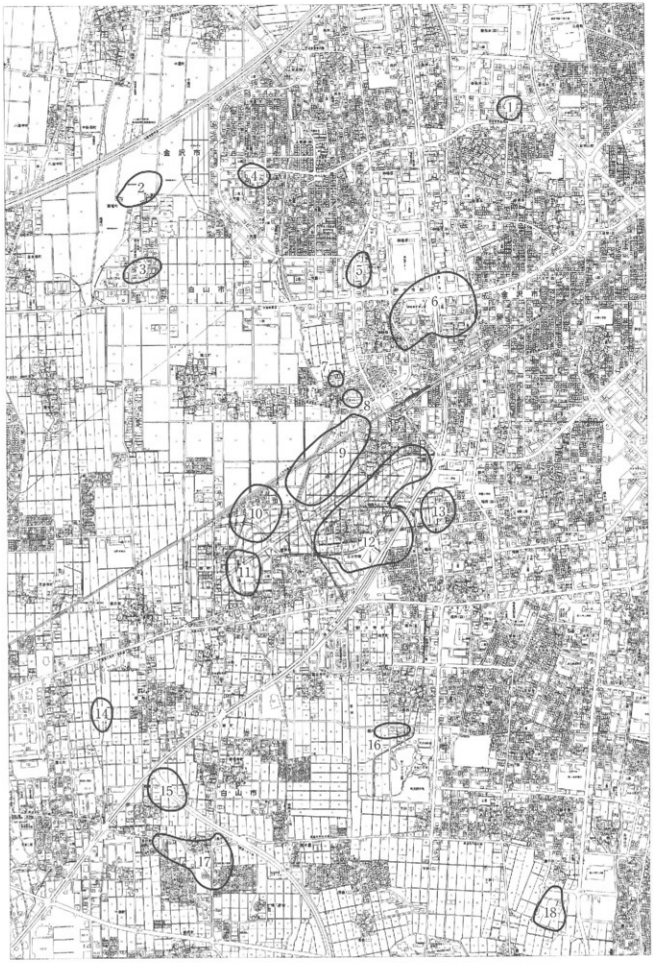
古墳時代後半になると、本遺跡から南方約4kmの市上流域の扇状地扇央部で末松古墳や上林古墳など後期古墳が築かれるようになる。これは河川上流域における開発が広がり始めていったことを意味する。

古代

7世紀後半には、手取川扇状地扇央部に、県内最古の古代寺院である末松廃寺が建立される。末松廃寺跡は、東に塔、西に金堂が置かれた法起寺式の伽藍配置をもち、この寺院建立以降、市内南部地域を含む手取川扇状地扇央部一帯で耕作地開発が急速に進み、特に8世紀後半以降は18藤平田ナカシンギジ遺跡をはじめとする周辺各地に集落が増大していく。扇状地扇端部には、初期荘園の遺跡である3横江荘々家跡、4上荒屋遺跡が所在する。また、三日市A遺跡の南方部には、9世紀頃に成立した古代の官道である北陸道の跡が見つかり、上記荘園遺跡との関係が指摘されている。

中世

11世紀後半～12世紀頃から、在地領主層の武士団の形成がはかられるようになった。地元武士団である林氏や富樫氏は、手取川扇状地での新開発や再開発に大きな影響を与えた。ただし、市内において現在のところ中世前半にかけての遺跡はあまり多く確認されていない。中世の遺跡が多く認められるようになるのは、富樫氏が加賀国の守護職に任じられ、野市に守護所を置く14世紀頃からである。三日市A遺跡をはじめ、近隣の二日市イシバチ遺跡や郷クボタ遺跡、中屋サワ遺跡では、溝で囲まれた中に建物などが配置される散居村のような景観が広がる集落が認められる。また、本遺跡南方1.5kmにある16堀内館跡では、幅1.5m、深さ1mほどの大きな堀で囲まれた屋敷地の跡も確認されている。15世紀以降になると、集落跡である三日市A遺跡、8長池キタノハシ遺跡、11徳用クヤダ遺跡では、掘立柱建物、竪穴状遺構などの主要遺構が密集した村落形態を示し、14世紀頃までみられた散村から集村へと大きく変わる様相となる。



第４図　遺跡の位置と周辺の遺跡（S=1/20000）

第1表　野々市市と周辺の遺跡

番号	遺　跡　名	種　別	時　代
1	チカモリ遺跡	集落跡	縄文
2	中屋サワ遺跡	集落跡	縄文～中世
3	横江荘今家跡	荘園	古代
4	上荒屋遺跡	集落跡　荘園跡	縄文～中世
5	御経塚シンデン遺跡 御経塚シンデン古墳群	集落跡　古墳	弥生～中世
6	御経塚遺跡	集落跡	縄文～中世
7	長池ニシタンボ遺跡	集落跡	弥生
8	長池キタノハシ遺跡	集落跡	中世
9	二日市イシバチ遺跡	集落跡　古墳	縄文　弥生　古墳　中世
10	郷クボタ遺跡	集落跡	弥生　古代　中世
11	徳用クヤダ遺跡	集落跡	古代　中世
12	二日市A遺跡	集落跡	弥生　古代　中世
13	二日市ヒガシタンボ遺跡	集落跡	弥生　古代　中世
14	徳丸ジョウジヤダ遺跡	集落跡	弥生　古代
15	乾遺跡	集落跡・墓地	縄文～近世
16	堀内館跡	館跡	中世
17	長竹遺跡	墓地・散布地	縄文～古墳
18	藤平田ナカシンギジ遺跡	集落跡	古代　中世

近世

現在見ることのできる集落は、近世に成立したと考えられる。御経塚集落内（御経塚遺跡デト地区）や郷町集落（徳用クヤダ遺跡）隣接地での発掘調査でも、近世の遺構・遺物を発見している。また、乾遺跡や、三山市A遺跡からは、当該時期の村落墓地跡を確認している。

第3節　基本層序

基本層序については、下記のとおりである。ただし、各調査区が広範囲であることから、それぞれの箇所で若干の相違が見られる。

1の灰色粘質土は土地区画整理事業以前まで行われていた水田耕作土である。2の橙灰粘質土は耕作土の整地層にあたる。3の暗灰粘質土は中世～近世頃までの耕作土と想定される。4の暗灰褐粘質土は遺物包含層で、中世の遺構面にもあたる。その下面にある5の黄褐粘質土は地山面である。

第5図　土層断面模式図

第3章　第3次（平成13年度）調査

第1節　調査の経過

第1項　調査に至る経緯

本調査区は区画街路建設に伴う調査であり、調査面積は1,200㎡である。平成13年10月19日付で野々市町北西部土地区画整理組合より当該地における発掘調査の実施依頼が提出された。その後、野々市町教育委員会との協議を重ね、同年11月5日に石川県教育委員会に埋蔵文化財発掘調査報告を提出し、現地調査の準備に入った。

第2項　発掘作業の経過

現地調査は平成13年11月8日に着手した。調査区設定後、重機により遺構上面までの表土を除去し、同月13日に完了した。人力による作業は14日より開始し、包含層を掘り下げた後に遺構検出を行い、順次遺構掘削を行った。着手した時期が冬季であり、加えて深い畝部などが錯綜していたため、狭い調査区の中は高低差が激しく、濡れた地面に足を滑らせる場面が多く難航したこともあり、年度内一杯の翌年3月26日まで作業にかかることとなった。そのため、雨水によるセクションベルトの崩落など、十分な検証を行うことができないままの調査終了となった。

出土した遺物の整理作業は、平成18年度に実施した。内容は洗浄及び記名、選別・接合であるが、細片が多く図示できるものはみられなかった。その他、現地での図面の編集と遺物写真の撮影、原稿執筆を経てすべての作業を平成24年3月30日に完了した。

第2節　遺構

既存の用水を挟み、西側を1区、東側を2区、南側の小調区を3区、北に大きく離れた狭長な調査区を4区（a～c）として区別した。1区については比較的地山の標高が高く、安定した地盤であるが、中央に遺構のみられない空白地帯が存在し、東側には南北方向の溝が数条確認された。2区については、西側の過半が深い畝部となっており、完全な形での遺構検出は困難を極めた。3・4区については畝間溝状の遺構や小穴が多く、特筆すべきものは見られなかった。

ＳＫ０１（第6図）

1区の西端に位置する。検出された部分で長さ3.28 m、幅0.78 m、深さ0.5 mを測る。性格は不明。

ＳＫ０２（第6図）

ＳＫ－１の東に隣接し、長さ最大で4.2 m、同じく幅2.75 m、深さ0.13 mを測る不定形の土坑である。内部には多くの小穴がみられ、底面の状態も悪く判然としないが、竪穴建物であった可能性もある。

ＳＰ０１～０７（第7図）

その他、一定程度の深さを有するピットを図示した。性格は不明である。

ＳＤ０１（第8図）

1区東側に位置する南北溝である。検出した部分の最大幅は76cm、深さ64cmを測る。性格は不明。

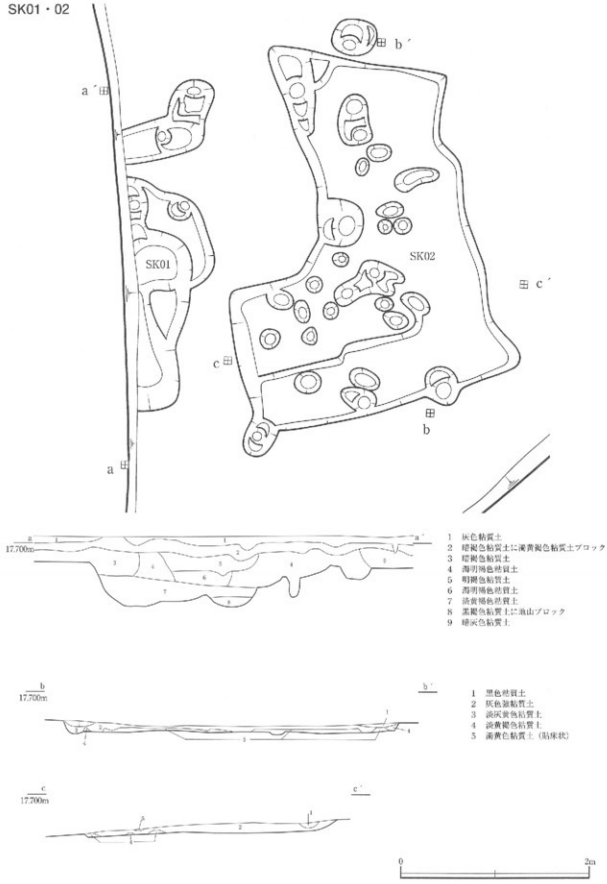
ＳＤ０２（第8図）

2区中央の屈曲部に位置する。西半は畝部により検出不能であったが、検出された部分で幅128cm、深さ90cm前後を測る。調査当時は細長い調査区を横切る溝であるというだけの認識であったが、今

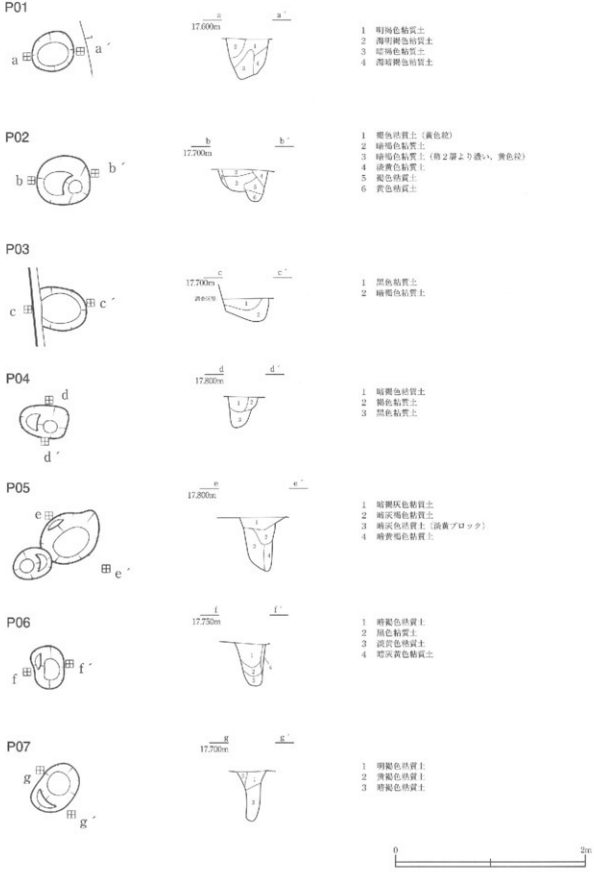
思えば古代北陸道と思われる道路状遺構の北側側溝にあたるものである。南側側溝については確認していない。

第3節　小結

本調査区は、二日市A遺跡の南側縁辺部にあたり、西側を深い鞍部で分断されていることもあり、遺構密度としてはさして高い部分ではなかった。調査時の天候の悪さに加え、粘性の強い地山によって決して十分な調査を行えたとは言えないものである。また、当時担当者は本調査区に古代北陸道が通っているという認識はまったく持っておらず、路面の硬化状況の確認等はまったく行っていないが、現在530 mの区間が部分的に確認されている古代の官道の、発見の端緒となる調査であった。

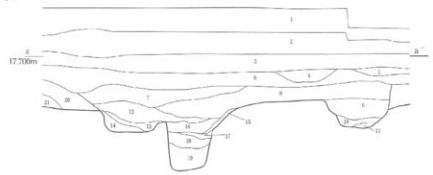


第6図　SK01・02遺構図・土層断面図（S=1/40）



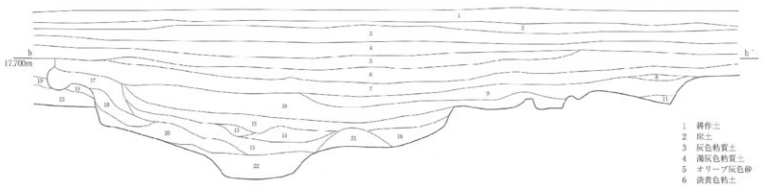
第7図　SP01～07遺構図・土層断面図（S=1/40）

SD01



1 耕作土
2 床土
3 黄色粘土
4 灰色粘砂質土
5 淡褐色強粘質土
6 黒色粘土
7 淡褐灰色粘質土
8 淡黄褐色粘質土
9 淡暗灰色粘質土
10 淡灰褐色粘質土（やや硬い）
11 淡黄色粘質土
12 淡暗灰色粘質土
13 淡暗灰色砂
14 淡黄褐色細砂
15 淡淡黄色粘質土
16 淡暗灰色粘砂質土
17 淡灰色細砂
18 淡褐色細砂
19 淡暗褐色細砂
20 淡灰黄色粘質土
21 淡黄色粘質土

SD02



1 耕作土
2 床土
3 灰色粘質土
4 淡灰色粘質土
5 オリーブ灰色砂
6 淡黄色粘土
7 黒色強粘質土
8 暗灰色粘質土
9 灰褐色粘質土
10 褐色粘土
11 淡灰黄色砂
12 淡灰黄色粘土
13 淡黄灰色粘質土
14 灰色粘砂質土
15 淡灰色砂
16 暗灰色粘土
17 淡暗灰色粘質土
18 黒色粘質土
19 淡灰色粘砂質土
20 淡黄灰色砂
21 小礫
22 砂（縞状）
23 淡黄色粘砂質土

第8図　SD01・02土層断面図（S=1/40）

第4章　第5次（平成14年度）調査

第1節　調査の経過

平成14年4月30日付で野々市町と北西部土地区画整理組合との間で委託契約を取り交わし、文化財保護法58条の2第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は平成14年5月7日付教文第40号で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会へ報告している。

現地での作業は平成14年5月9日より開始した。調査区設定後、大型重機による遺構面までの掘削を行い、掘削は5月14日に完了している。調査の実施にあたっては公共座標を基準とした10ｍ×10ｍのグリッド杭の設定を外部委託により行った。アルファベットと算用数字を用いてグリッド割を行っている。グリッド杭設定後本格的な調査を開始している。作業員による人力作業は5月21日より開始した。初日は調査区周辺の草刈り、壁削りを行い、5月23日から遺構検出を南側より開始し、中世の溝や掘立柱建物を確認した。5月28日には更に検出を進め、ピットや古代北陸道にあたる溝などを確認した。主要な遺構を確認した場合や遺物が出土したものについては、記録作業を行ってから完掘した。記録作業はスケール1/20で記録を行い、遺構番号は出土した遺物の取り上げと同時に番号を付す方法を取った。遺構の土層断面や遺物の出土状況の写真撮影は白黒フィルム、カラーリバーサルフィルムを使用し、デジタルカメラでの撮影も行っている。遺構掘削作業は7月1日に終了し、翌日から排水作業や調査区内の清掃等を行い、翌7月5日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影と測量を実施した。同日に調査機材の洗浄、搬出作業を終えて現地調査を終了した。

出土遺物整理作業は平成15年度に野々市町ふるさと歴史館内の調査整理室で実施した。遺物の整理作業は臨時職員が1名担当し、手順は、出土した全ての遺物を洗浄し、乾燥した遺物に遺跡名や出土した遺構番号などを注記した。注記後は可能なものは接合を行い、残りの状態の良好なものについては実測図を作成し、トレースを行っている。その後現地調査で記録を行った土層断面図などのトレースも実施した。

報告書の刊行作業は平成23年12月より開始し、原稿執筆、図版作成、遺物写真撮影、報告書編集を行い、平成24年3月に刊行した。

空中写真測量

遺構検出状況

第2節　遺構

ＳＢ０１（第９図）

調査区南端で確認した東西２間以上、南北２間以上の総柱式掘立柱建物である。南面と西面は調査区外へと延びるため、全容は明らかでない。柱間は 190cm ～ 220cm、柱穴の形状は円形や楕円形、略方形など様々であるが、規模は一辺 30cm 前後と均一している。深さは平均 15 ～ 20cm であるが、北面西端の柱穴だけは、一辺約 40cm、深さ 47cm と規模や深さが他よりも大きい。

ＳＫ０１（第９図）

調査区中央で検出した東西に長い楕円形土坑である。長辺 130cm、短辺 115cm、深さ 68cm、西側には三日月型のテラスを有する。堆積土には黒色粘質土や灰色粘質土など多様な土が混在するようにして埋まっており、全般的に炭化粒が入り込んでいる。遺物の出土はなかったため、詳細時期は不明である。

ＳＤ０１

調査区北端で確認した。東西方向であるが、やや北に傾きをもつ。東西長 646cm、幅 22 ～ 60cm、深さ平均 10cm である。溝内には直径 10 ～ 20cm、深さ 5cm 前後のピットがいくつも確認できる。

ＳＤ０２

調査区の北端、ＳＤ０１より３m南方に位置する。ＳＤ０１と同一方向となる東西方の溝である。長さ 666cm、幅 20 ～ 25cm、深さ 5 ～ 8cm である。

ＳＤ０３

ＳＤ０２の中央から南西方向へと進む溝である。長さ 780cm、幅 28 ～ 44cm、深さ 8 ～ 12cm を測る。ＳＤ０２とは切りあっており、ＳＤ０３の方がＳＤ０２よりも新しい。

ＳＤ０４（第 10 図）

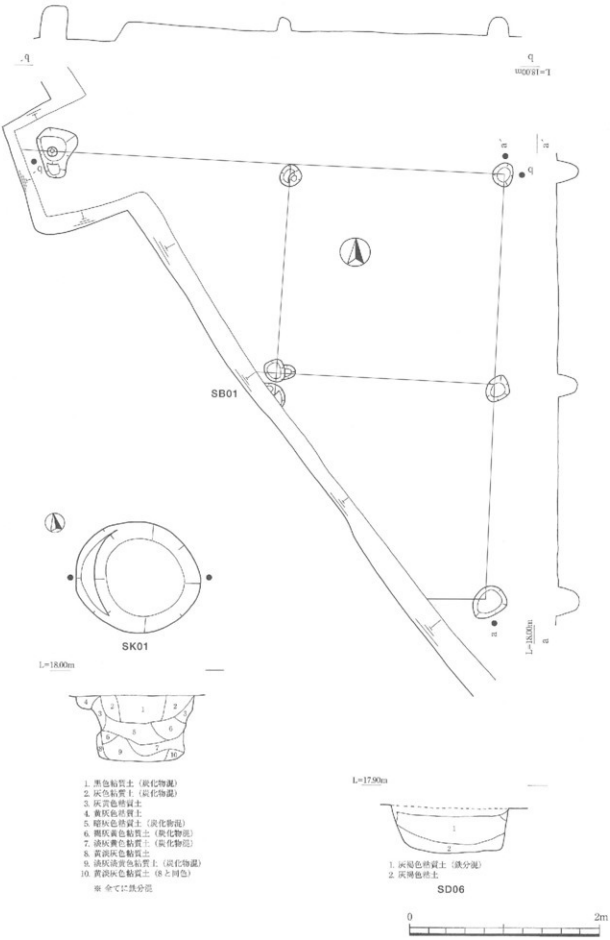
調査区北側、ＳＤ０３の南に位置する東西溝である。方位はＳＤ０１、ＳＤ０２と同方向で、やや北方に傾く。溝の長さは 875cm、幅約 80cm を測る。溝は大きく２回掘り直されていたようで、掘り変え毎に南から北へと移動している。深さは当初の溝が最も深く、掘り変えられる度に浅くなっている。当初の溝の深さは 70 ～ 90cm、２回目に掘られた溝の深さが 40 ～ 45cm、３回目に掘削された溝の深さが 20cm 前後である。

ＳＤ０５（第 10 図）

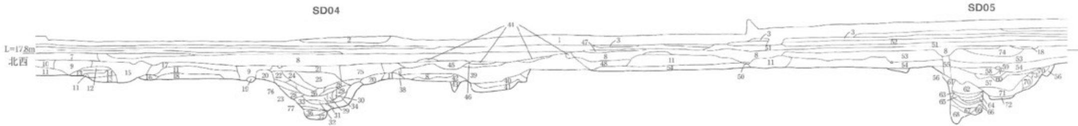
調査区の中央からやや北側に位置する溝である。東西方向でＳＤ０４と同方位である。１回の掘り直しが認められる。長さ 918cm、幅は当初が 60 ～ 65cm、２回目が 155 ～ 180cm、深さは当初が 45 ～ 80cm、２回目が 40 ～ 45cm を測る。

ＳＤ０６（第９図）

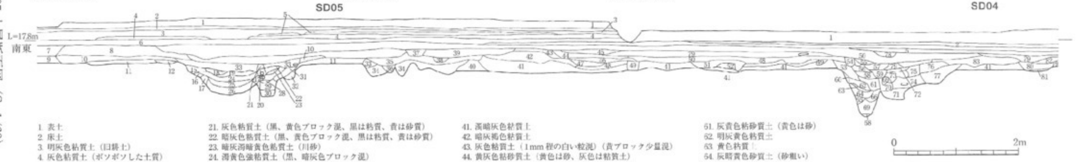
調査区南端で確認した南北溝である。ＳＢ０１の東隣を南下し、そのまま調査区外へと延びる。長さ 800cm、幅 80 ～ 120cm、深さ 20 ～ 50cm を測る。溝の北端には人頭大の自然石の集積が認められる。覆土からは中世の土器・陶器が出土している。



第 9 図　SB01 ・ SK01 遺構図・土層断面図、SD06 土層断面図（S=1/40）



1. 表土
2. 盛土（まぎれ込んだ土）黒色、黄色、灰色ブロック混ざった土
3. 灰土
4. 旧耕土
5. 旧床土
6. 灰褐色粘質土
7. 暗灰色粘質土（8より少し濃い）｝1mm 程度の白い粒混じる、砂質寄り
8. 暗灰色粘質土
9. 灰褐黄色粘質土（濁黄色は川砂）
10. 濁灰黄色粘質土（濁黄色は川砂）
11. 黒暗灰色粘質土
12. 淡灰淡黄色砂質土（川砂）
13. 濁灰黄色砂質土（川砂）（黒色ブロック混）
14. 淡黄淡灰色砂質土（川砂）（黒色ブロック混）
15. 灰褐色粘質土（濁黄色は川砂）
16. 濁灰黄色粘質土（13と同色であるが、粘質土）
17. 暗灰色粘質土
18. 濁暗灰黄色粘質土
19. 濁灰色粘質土
20. 暗褐色粘質土
21. 褐灰色粘質土（1mm 程の白い粒混じる、砂質寄り、7・8と似る）
22. 褐灰黄色粘質土
23. 淡明灰淡黄色砂質土（川砂）
24. 淡明灰黄色粘質土（黒色粘ブロック混）
25. 淡灰黄色粘質土（1部に黄色砂混）
26. 濁灰濁黄色砂質土
27. 濁灰黄色粘質土
28. 淡灰黄色粘質土
29. 淡灰淡黄色砂質土
30. 暗灰黄色砂質土
31. 淡灰色砂質土（砂が粗い）
32. 淡灰白灰色砂質土
33. 灰暗灰色砂質土（1cm 程の小石混、砂が粗い）
34. 淡灰色粘質土
35. 黒、暗灰色粘質土（黄色ブロック混）
36. 濁灰濁黄色砂質土（砂が粗い）
37. 灰、暗灰色粘土
38. 暗灰色粘質土
39. 黒色粘質土
40. 黒色強粘質土
41. 黒黄色強粘質土
42. 淡灰黄色粘質土
43. 淡灰淡黄色粘質土（29と似る）
44. 黒黄色粘質土
45. 灰黄色粘質土（1部黄色マーブル状に混）
46. 暗灰黒色粘質土
47. 灰褐色粘質土
48. 灰暗灰黄色砂質土（3色マーブル状に混）
49. 褐黄色砂質土
50. 暗灰色砂質土（小石混）
51. 褐灰色粘質土（暗灰色ブロック混）
52. 灰橙色粘質土
53. 灰色粘質土（1mm 程の白い粒混、7、8、21と似る）
54. 褐灰色粘質土（1mm 程の白い粒混、7、8、21と似る）
55. 灰色粘質土
56. 灰黄色粘質土
57. 褐黄色粘質土（黒色暗灰色ブロック混）
58. 灰黄色砂質土
59. 黒灰色粘質土
60. 灰黄色粘質土
61. 灰色粘質土（黄色ブロック混）
62. 黒暗灰色粘質土（黄色ブロック混）
63. 暗灰色粘質土（黄色ブロック混）
64. 黒色粘質土
65. 黄暗灰色粘質土（黄色はしまっている）
66. 暗灰色強粘質土
67. 暗灰黄色粘質土（2色マーブル状）
68. 淡灰黄色粘質土（黒色ブロック混）
69. 暗灰黄色粘質土（黄色ブロック混）
70. 黒暗灰黄色粘質土
71. 暗褐黄色粘質土（黒色ブロック混）
72. 灰黄色砂質土
73. 灰黒色粘質土（黄色ブロック混）
74. 灰黄色砂質土（7、8と似る）（1mm 程の白い粒混）
75. 灰色粘質土
76. 淡灰色粘質土
77. 橙黄色砂質土（1cm 程の小石混）



1. 表土
2. 床土
3. 明灰色粘質土（旧耕土）
4. 灰色粘質土（ボソボソした土質）
5. 粗灰色粘質土（旧床土）
6. 灰色粘質土
7. 濁灰黄色粘質土（濁黄色は川砂）
8. 褐色粘質土（1mm 程の白い粒混）
9. 暗灰黄色粘質土
10. 暗褐色粘質土
11. 灰黄色粘質土
12. 暗灰黄色粘質土
13. 黒色粘質土（1mm 程の白い粒混）
14. 暗黄灰色粘質土
15. 暗灰色粘質土（黒、黄色ブロック混）
16. 灰色粘質土（黒、黄色ブロック混）
17. 濁灰色粘質土（黒、黄色ブロック混）
18. 晴灰色砂質土（黒、黄色ブロック混）
19. 晴灰色砂質土（黒、黄色ブロック混、黒は粘質、黄は砂質、1cm 程の石混）
20. 青灰色砂質土（黒、黄色ブロック混、黒は粘質、黄は砂質、1cm 程の石混）
21. 灰色粘質土（黒、黄色ブロック混、黒は粘質、黄は砂質）
22. 暗灰色粘質土（黒、黄色ブロック混、黒は粘質、黄は砂質）
23. 暗灰濁暗黄色粘質土（川砂）
24. 濁黄色強粘質土（黒、暗灰色ブロック混）
25. 淡（白）灰色強粘質土
26. 濁灰色粘質土
27. 灰色粘質土（黒、黄色ブロック混、16と似るが黄が濃い）
28. 暗灰粘質土（黒、黄色ブロック混、22と似るが28の方が黒ブロックが濃い）
29. 黒暗灰色粘質土（黄ブロック混）
30. 黒色粘質土（黄ブロック混）
31. 暗灰色粘質土（黄ブロック混）
32. 灰色粘質土（黒、黄色ブロック混）
33. 灰色粘質土（黄色ブロック混）
34. 淡灰黄色粘質土（黒色ブロック混）
35. 茶色粘質土（黄ブロック少量混）
36. 暗淡灰色粘質土（黄、黒ブロック混）
37. 暗茶色粘質土（炭化物有）
38. 茶色粘質土（黒色ブロック混）
39. 褐色粘質土（1mm 程の白い粒混））（8と同色）
40. 濁灰黄色粘質土
41. 濁暗灰色粘質土
42. 暗灰褐色粘質土
43. 灰色粘質土（1mm 程の白い粒混）（黄ブロック少量混）
44. 黄灰色粘砂質土（黄色は砂、灰色は粘質土）
45. 灰色砂質土（1mm 程の白い小礫混）
46. 淡灰色砂質土
47. 黒灰色粘砂質土（黒色は粘質土、灰色は砂）
48. 淡灰色粘質土
49. 濁灰暗黄色粘質土
50. 黄灰色粘砂質土（黄色は砂、灰色は粘質土）（黒色ブロック混）
51. 黒色粘質土（暗黄色ブロック混）
52. 濁灰暗黄色粘質土
53. 茶色粘質土
54. 灰色粘質土（黄色ブロック、1mm 程の白い粒混）
55. 灰黄色粘質土
56. 淡明灰黄色粘質土
57. 淡黄灰色粘質土
58. 淡明灰黄色粘砂質土（黄色は砂）
59. 明灰黄色砂質土
60. 黒灰黄色粘質土
61. 灰黄色粘砂質土（黄色は砂）
62. 明灰黄色粘質土
63. 黄色粘質土
64. 灰暗黄色砂質土（砂粗い）
65. 青灰色砂質土
66. 濁黄色砂質土
67. 青灰色砂質土（砂粗）
68. 青灰色粘土
69. 淡（白）灰黄色粘砂質土（黄は砂）
70. 明青灰色粘質土
71. 暗灰色粘質土（黄、黒色ブロック混）（炭化物混）
72. 明灰濁黄色粘質土
73. 橙灰色砂質土（砂粗い）
74. 明青灰橙黄色粘砂質土（黄は砂）
75. 灰茶色粘質土
76. 褐色粘質土
77. 茶灰色粘質土（黄色ブロック混）
78. 明褐灰色粘質土
79. 明灰色粘質土（1mm 程の白い粒混）
80. 褐灰色粘質土
81. 灰黄色粘質土
82. 灰褐色粘質土
83. 灰色粘質土（1mm 程の白い粒混）

第10図　SD04・SD05 土層断面図（S=1/60）

第11図　三日市A遺跡（第5次）遺構平面図（S＝1/200）

第３節　遺物

出土遺物については、弥生時代、古代、中世の３時期のものが出土している。総体的に出土量は少なく、実測点数も 10 点に止まった。

１は外面赤彩、内面黒色の土師器塊である。９世紀中頃の所産である。２は８世紀末～９世紀初頭の須恵器蓋である。金沢市の末窯産と思われる。３は須恵器の無台坏で、９世紀初頭のかほく市の高松産と推される。４は８世紀後半頃と思われる土師器塊である。５は須恵器の有台坏で、３と同様９世紀初頭の高松産と考えられる。６は 14 世紀中頃と思われる土師器皿である。７は珠洲焼壷の底部にあたる。内面の一部に擦りこんだ形跡が認められ、最終段階で擂鉢的な用途に転用されたようである。８は越前焼擂鉢である。９は砥石である。研ぎ面の裏側には自然剥離の箇所があり、そこを土台にして使用したようである。10 は石斧である。基部は欠損している。刃は外湾刃で、幅が長軸中程で最小となる括れをもつタイプである。

第４節　小結

調査区中央やや北寄りにあるＳＤ０４とＳＤ０５の間の空間地は、周囲の発掘調査成果などから、古代の官道である北陸道の路面跡と推測される。方位は東西より北方へ 18° 触れ、路面の幅は 860～980cm を測る。路面内には複数の不定形な穴が錯綜しているが、轍など道路に直結する遺構かどうかは不明である。なお、硬化面は確認できなかった。また、ＳＤ０４は北側の側溝、ＳＤ０５は南側の側溝にあたる。両溝は２、３回掘り直されていることから、道路の造り替えがあったようである。時期は側溝から出土した須恵器などから、８世紀後半～９世紀中頃と考えられる。

ＳＤ０４の北方に位置するＳＤ０１やＳＤ０２などの東西溝は、遺構配置などから畝状溝となり耕作用の溝と推測される。これらの溝は、ＳＤ０４やＳＤ０５と同一方向であることから、古代北陸道跡が機能していた時期に耕作地として利用されていたようである。

調査区南半には２間以上×２間以上の総柱式掘立柱建物ＳＢ０１を検出した。ＳＢ０１の東方にある南北溝ＳＤ０６は、ＳＢ０１に対する区画もしくは排水溝と考えられ、溝によって画された宅地が存在したようである。時期は出土遺物から 14 世紀中頃と推される。なお、周辺一帯で実施された発掘調査では、当該時期の遺構・遺物はほとんど確認していないことから、本調査区とその近隣地のみに展開した極めて小規模な集落跡が存在したようである。

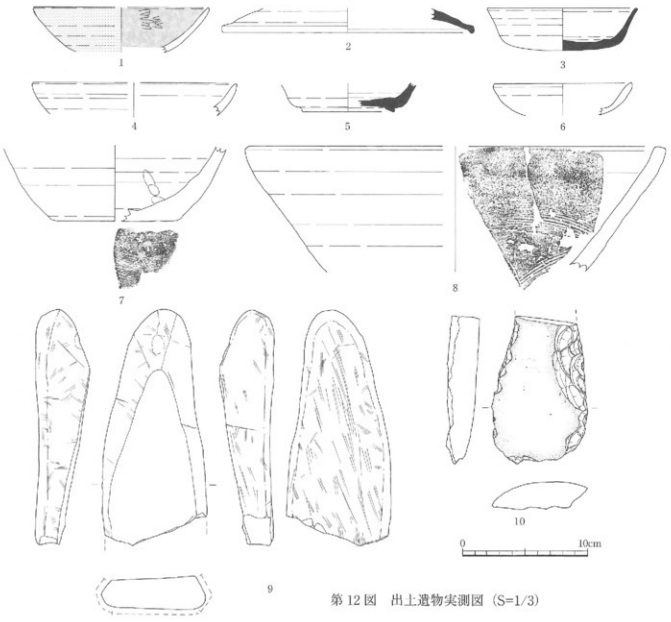
参考文献

田嶋明人　1988「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』石川考古学研究会　北陸古代土器研究会

藤田邦夫　1997「中世加賀国の土師器様相」『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』桂書房

河合忍　安英樹　1999「石鍬雑考」『石川県考古資料調査・集成事業報告書　農工具』石川考古学研究会

柿田祐司　2006「加賀・能登の様相」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』北陸中世考古学研究会



第 12 図　出土遺物実測図（S=1/3）

第 2 表　出土遺物観察表

実測番号	遺構	種類	口径	器高	底径	色調（内）	調整（内）	残存率	備考	番号
		器種	(cm)	(cm)	(cm)	色調（外）	調整（外）			
1	SD04	土師器	(14.0)			黒	ミガキ、内黒	小片	内黒赤彩	N-5
		埦				にぶい橙	ロクロナデ、赤彩			
2	SD04	須恵器	20.0			灰	ロクロナデ	口縁 1/9	焼成不良	N-6
		壺				灰	ロクロナデ			
3	SD04	須恵器	12.0	3.4	8.0	灰白	ロクロナデ	口縁 約 1/4	焼成不良 歪みあり	N-7
		坏				灰白、灰	ロクロナデ			
4	SD05	土師器	(16.2)			橙	ロクロナデ	口縁小片	赤色酸化粒あり	N-4
		埦				橙	ロクロナデ			
5	壁面	須恵器			7.3	灰	ロクロナデ	底部 約 1/4		N-8
		有台坏				灰	ロクロナデ			
6	SD06	土師器	11.0			にぶい橙	ヨコナデ	1/6	赤色酸化粒あり 全体的に磨耗	N-3
		皿				にぶい橙	ヨコナデ			
7	SD06	珠洲焼			10.0	灰	ロクロナデ、指圧痕	底部 約 1/4	海綿骨針あり	N-1
		壺				灰、灰白	ロクロナデ			
8	包含層	越前焼	(33.2)			灰、灰白	ロクロナデ、卸目	1.9	外面に重ね焼き痕あり	N-9
		捕鉢				灰	ロクロナデ			

第 3 表　出土石製品観察表

実測番号	遺構	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	質量 (g)	番号
9	SD06	砥石	(18.7)	(8.3)	(4.3)	(755)	N-2
10	包含層	打製石斧	(11.8)	(7.6)	(2.6)	(230)	N-10

第5章　第10次（平成15年度）調査

第1節　調査の経過

第1項　調査に至る経緯

本調査区は、区画街路の建設に伴う調査であり、調査面積は792㎡である。平成15年4月1日付教文第6号にて石川県教育委員会へ発掘調査報告を提出し、その後現地における発掘調査の準備に入った。

第2項　発掘作業の経過

現地における調査は年度が変わって間もない平成15年4月2日に着手した。調査区の設定後、重機を用いて遺構面までの表土を除去し、人力での作業は同月11日より開始した。まず遺構面までの包含層を掘り下げ、同時にグリッドごとに遺構検出を行いながら並行して遺構略測図を作成した。その後遺構の掘削を進め、必要な記録の作成や写真撮影などを実施し、5月7日に現地における調査を終了した。

出土した遺物の整理作業は、平成18年度に行った。内容は、遺物の洗浄と記名、分類・接合であるが、小片が多く、かつ出土量もわずかであるため図化して掲載できるようなものは出土していない。その後、現地での記録図面の編集や遺物写真の撮影、原稿執筆などを行い、平成24年3月30日にすべての作業を完了した。

第2節　遺構

確認された遺構は隣接する第9次調査区に続く古代北陸道と思われる道路状遺構の側溝が主なものであり、それ以外の小穴や不定型な土坑等については性格は不詳である。また、調査区北端には畝間溝と思われる細い溝が確認される。各遺構の配置については遺構全体図で確認いただきたい。また、道路状遺構の溝データについては『三日市A遺跡　5』（平成24年3月30日）第9次調査の章を参照願いたい。

第3節　小結

本調査区で確認された古代北陸道と思われる道路状遺構は第9次調査と一体となって理解されるべきものであるが、調査原因の違いから別冊となっており大方にご不便をおかけすることを申し訳なく思う。しかし、これまで不明であった加賀平野における古代北陸道の実態を解明する端緒となった調査であり、意義深いものであった。

第6章　第11次（平成15年度）調査

第1節　調査の経過

第1項　調査に至る経緯

本調査区は、区画街路建設に伴う調査であり、調査区が2か所に分かれている。合計の調査面積は550㎡である。本調査は、先行して実施していた第9次調査と第10次調査の調査中に追加の案件として依頼されたものであり、野々市町北西部土地区画整理組合と野々市町が7月7日付で委託契約を締結し着手したものである。発掘調査報告は平成15年7月7日付教文第97号で提出している。

第2項　発掘作業の経過

調査は、最初に西側（C－1区）の調査区より開始した。平成15年7月9日に重機を用いて遺構上面までの表土を除去し、その後人力による作業に着手した。内容は、包含層の掘り下げと同時に遺構を検出し、並行して遺構略測図を作成した。その後遺構の掘削を開始し、必要な情報を記録に残した。東側（C－2区）の調査区を含め、すべての現地調査が終了したのは8月31日であった。

出土した遺物の整理作業は、平成18年度に行った。遺構密度、出土遺物ともに非常に少なく、10日間という短い期間の作業であった。その後、現地での記録図面の編集を行い、原稿執筆を含めたすべての作業を平成24年3月30日に完了した。

第2節　遺構（第13～15図）

C－2区については三日市A遺跡推定値の縁辺ということもあり、特筆すべき遺構は確認されなかった。C－1区については竪穴建物2棟が確認されている。ＳＩ01は2.12ｍ×2.04ｍを測る略方形の竪穴建物である。数基の土坑等により形はいびつであるが、床面までの深さは最深で約20cmである。遺物は1点掲載しているが、弥生時代後期後半の有段口縁の甕であり、混入品と思われる。ＳＩ02は2.08ｍ×2.04ｍを測るほぼ正方形の竪穴建物である。やはり多くの遺構で攪乱を受けているが、床面までの深さは約5cmと大きく削平されているようである。図示できる遺物の出土はみられなかった。その他、数条の溝状遺構や土坑が確認されている。

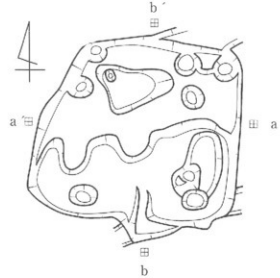
第3節　遺物（第16図）

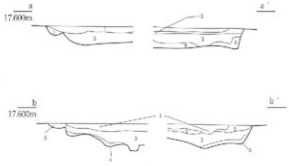
図示できた遺物は10点と非常に少ない。古代のものとしては2～6までの須恵器6点がある。他は近世の遺物が主体である。詳しくは遺物観察表（第5表）を参照いただきたい。

第4節　小結

C－1区については隣接する第25次調査区とあわせ、農地として利用されていたものであろう。C－2区についても、小振りの竪穴建物2棟が確認されているが散発的なものであり、遺跡推定地の縁辺ということもあって後代は主に農地として利用されていたものと考えられる。

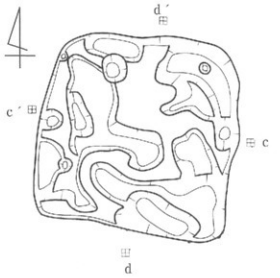
C1区-SI01





1 黒灰褐色土
2 黒灰褐色土（1層より暗い、黄色土が筋状に伴びる、貼床か）
3 暗褐灰色土（黄色土ブロック）
4 暗褐灰色粘質土
5 灰褐灰色粘質土（黄色土多）
6 暗褐灰色土（漆喰土）

C1区-SI02



1 暗褐色土
2 暗褐色土（黄色土粒多）
3 暗褐色土
4 暗褐灰色土
5 暗褐色土（1層より淡い）
6 褐灰色土（黄色土粒多）
7 灰黄褐色土
8 灰黄褐色土（7層より暗褐色土多）

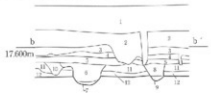
1 暗褐色土
2 暗褐色土（黄色土粒混）
3 灰褐色土（黄色土粒少）
4 暗褐色土
5 灰黄褐色土（暗褐色土）
6 灰黄褐色土
7 暗褐灰色土
8 灰黄褐色土

第13図　C1区SI01・02遺構図・土層断面図（S=1/40）

C1区-SD01・SD02（調査区北壁）

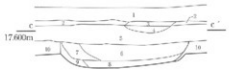
1 灰色土（排作土）
2 灰色土（排作土）
3 灰色土（排作土）
4 褐灰色土（床土）
5 暗褐色土（茶色がかる，包含層）
6 暗褐色土（黄色土，砂質）
7 暗褐色砂質土
8 暗褐色土（包含層）
9 褐色土（砂質，黄色土粒）
10 褐色砂質土
11 海黄褐色土（地山の汚れ）

C1区-畝溝（調査区西壁）



1 灰色土
2 灰色土
3 灰褐色土
4 灰褐色土（3層より明るい）
5 茶褐色土（包含層）
6 暗褐色土
7 海褐褐灰色砂質土
8 暗褐色土
9 暗灰褐色粘質土
10 暗褐色粘質土（灰色粘質土）

C1区-SK01（調査区南壁）



1 灰色土（排作土）
2 褐色土（床土）
3 海褐色土（砂質）
4 海褐色土（砂質）
5 暗褐色土（包含層）
6 暗褐色土（包含層）
7 暗褐色土（6層より暗い）
8 海褐褐色土（砂質あり，黄色土粒）
9 海褐褐色土（黄色土）
10 海黄褐色土

C1区-SD03～05

1 暗褐色土
2 暗褐灰色土（炭粒微）
3 暗褐色土（黄色土粒微）
4 海暗褐灰色土（黄色土粒少）
5 暗褐灰色土

C1区-SD06

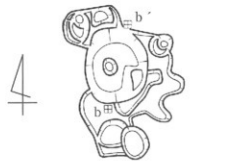
1 暗褐色土（黄色粒微）

第14図　C1区SD・畝溝・SK土層断面図（S=1/40）

C2区-SK01

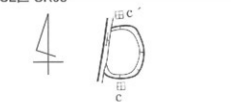
1 暗褐色土（炭粒）
2 暗褐色土（黄色土粒少）
3 暗褐色土（黄色土粒より多）
4 暗褐色粘質土
5 褐灰色土
6 茶褐色土（黄色土多）

C2区-SK02



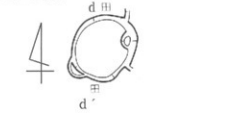
1 暗茶褐色土（焼土・焼土粒）
2 暗茶褐色土（焼土・焼土粒、黄色土）
3 褐色土
4 褐灰色土
5 褐灰色土（4層より暗い）

C2区-SK03



1 暗褐色土
2 暗褐色土（1層より暗い）
3 暗褐色土（黄色土粒・焼土粒・炭粒）
4 黄褐色土

C2区-SK04

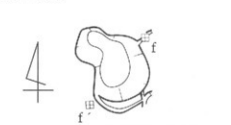


1 暗褐色土（炭混）
2 暗茶褐色土（炭粒・焼土粒）
3 暗褐色土（黄色土）
4 暗褐色土（3層より暗い）

C2区-SK05

1 灰黄褐色土（暗褐色土）
2 灰褐黄色土（黄色土ブロック少）
3 暗褐色土
4 暗褐色土（3層より暗い）
5 暗褐色土（4層より暗い）
6 暗褐色土
7 暗褐色土
8 暗褐色土
9 灰黄褐色土
10 灰黄褐色土（9層より暗褐色土多）

C2区-SK06

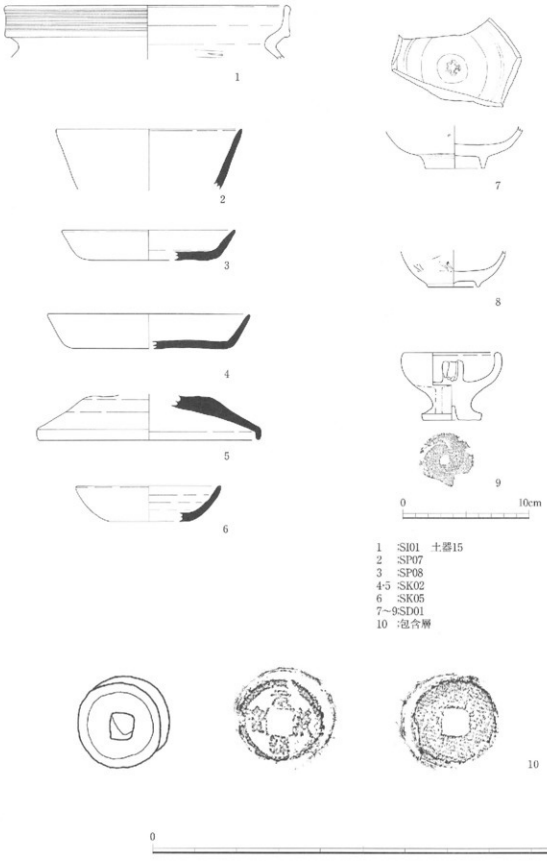


1 褐色土（黄色土少）
2 褐色土
3 暗褐色土
4 暗褐色土（黄色土多）
5 黄褐褐色土（暗褐色土）

第15図　C2区SK01～06遺構図・土層断面図（S=1/40）

第4表　遺構観察表

区	遺構名	長径cm	短径cm	深度cm	区	遺構名	長径cm	短径cm	深度cm
C1	SI01	216	190	39	C2	SK01	83	65	46
	SI02	207	208	17		SK02	74	65	35
						SK03	54	35+	33
	SD01	1018	35	12		SK04	70	57	57
	SD02	1087	40	11		SK05	84	52	35
	SD03	478	38	7		SK06	90	61	45
	SD04	927	31	8					
	SD05	900+	38	9					
	SD06	743	48	6					
	P01	42	28	40					
	P02	58	38	28					



第16図　出土遺物実測図（S=1/3、10のみS=1/1）

第5表　出土遺物観察表

掲載番号	種別	器種	出土地点	口径 mm	底径 mm	器高 mm	遺存個	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	胎土	実測番号	備考
1	弥生土器	甕	C1-S01上器15	229			小片	ロクロナデ、カキメ	ケズリ	10YR7/3	10YR7/4	S1	T489	
2	須恵器	坏	C2-P007	148			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y6/1	5Y6/1	S1	T523	
3	須恵器	坏A	C2-P008	138	90	24	1/9	ロクロナデ、底部ヘラ切り（摩耗）	ロクロナデ	2.5Y8/2	2.5Y8/2	L1、S1	T519	
4	須恵器	坏A	C2-SK02	160	120	28	1/9	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y8/2	2.5Y8/2	S1	T517	
5	須恵器	坏蓋	C2-SK02	178		36	1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y6/1	5Y5/1	L1、M1、S1	T518	
6	須恵器	坏A	C2-SK05	116	60	28	1/9	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y6/1	5Y6/1	M1、S1	T520	
7	陶磁	椀	C2-SD01		46		2/3	染付、透明釉	染付、コンニャク印判、透明釉、見込蛇目釉剥				T521	肥前
8	陶磁	椀	C2-SD01		42		完	染付、透明釉	染付、透明釉				T522	肥前
9	陶磁	壺蓋	C2-SD01		46	54	完	底部糸切り、施釉	ナデ、施釉				T524	
10	金属製品	銭貨	C2-包含層	最大長24、最大幅24.5、最大厚0.4、重量5.6g									T527	

注記　遺構番号はそれぞれの区で付加され、通しではない
法量の数値は遺存値の項目に「完」とない場合はすべて復元径である
遺存値に示した数値は、実測図に表された範囲内での遺存値であり、器形全体に対するものではない「ヨコナデ→ケズリ」であれば、ヨコナデを行ったのちケズリを行っていることを示す
調整　併記の場合は同一器面で調整が異なる場所があることを示す
　「新美　標準土色帳」に準拠
色調　アルファベットは鉱物粒子の大きさ。S（径1mm以下）M（径1～3mm）L（径3mm以上）
胎土　数値は鉱物粒子の量。0（ほとんど含まない）1（少量含む）2（やや多い）3（多い）

須恵器・土師器の器種名は小松市教育委員会2006～2010『額見町遺跡Ⅰ～Ⅴ』を参考にした
珠洲焼の器種名は吉岡康暢1994『中世須恵器の研究』（吉川弘文館）を参考にした
九州陶磁器については九州近世陶磁学会2000『九州陶磁の編年』を主として参考にした

第７章　第 18 次（平成 17 年度）調査

第１節　調査の経過

第１項　調査に至る経緯

本調査区は区画街路建設に伴う調査であり、調査面積は 2,256 ㎡であった。平成 17 年４月１日付教文第２－１号にて石川県教育委員会に発掘調査報告を提出し、現地における調査の準備に入った。

第２項　発掘作業の経過

現地における調査は平成 17 年４月 14 日に着手した。調査区の設定後、重機を用いて遺構面の不要な乾燥を防ぐため、まず第 19 次調査区（都市計画道路建設予定地）の西側の遺構上面までの表土を除去し、人力による作業は同月 27 日より着手した。内容は、包含層の掘り下げと遺構検出を同時に行い、並行して 1/100 スケールの遺構略測図を作成し、その後遺構の掘削を行った。途中、植樹などの移転作業により、一時的に中断を余儀なくされる事態もあったが、東側調査区における空中写真測量を含めたすべての作業を９月 25 日に終了した。

出土した遺物の整理作業は、平成 19 年度に実施した。内容は遺物の洗浄と記名、選別と接合及び実測図の作成とトレースである。並行して調査員が遺構実測図の編集と遺物写真の撮影、原稿執筆などを行い、すべての作業を平成 24 年３月 30 日に完了した。

第２節　遺構（第 17 ～ 34 図）

本調査区では掘立柱建物 16 棟、竪穴建物３棟、土坑９基、溝状遺構 22 条、性格不明遺構６基が検出されている。第 19 次調査区にみられた大型の掘立柱建物とあわせ、周辺には掘立柱建物を主体とする集落が展開していたことが知られる。詳細は遺構観察表（第６・７表）を参照願いたい。

第３節　遺物（第 35 ・ 36 図）

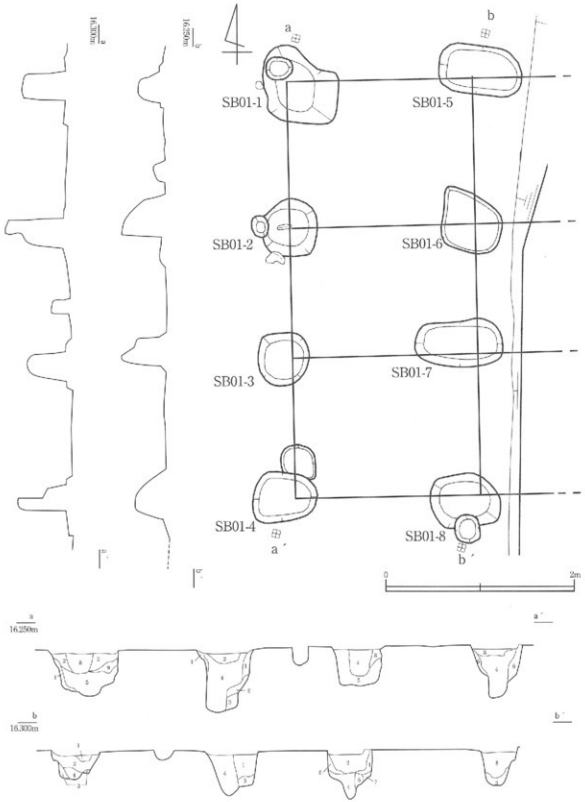
遺物は 30 点図示したが、主体となる遺構からの出土が少なく、内９点が包含層及び攪乱からの出土である。須恵器と土師器が主体であり、いずれも９世紀代のものである。詳細は遺物観察表（第８表）を参照願いたい。

第４節　小結

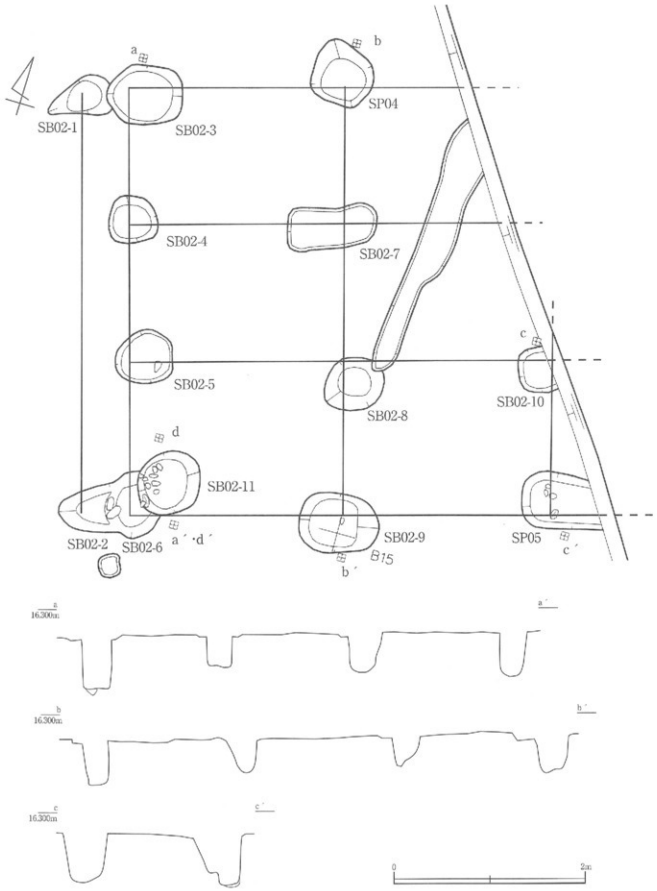
本調査区は、三日市Ａ遺跡推定地の中央東側にあたり、古代に限定すればその分布の中心部にあたる。掘立柱建物は 16 棟設定しているが、多少強引なものも含まれており、また建物方位軸もあまり統一性が取れていないものである。隣接する第 19 次調査区の様相は、西へ 20° ～ 25° 振れるものが多く、本調査区ではＳＢ０２、０３、０４、が該当する。これらは第 19 次調査区で最も大きな掘立柱建物ＳＢ０９と類似する方位軸であり、同時期の建物である可能性が高い。ＳＢ０９（第 19 次）は、南へ 150 ｍほど離れた地点に伸びる古代北陸道と思われる道路状遺構に建物主軸を直行させる向きで建てられており、９世紀から 10 世紀にかけて廃止された石川郡内の駅家の可能性が考えられている。周辺では数次にわたる調査が実施されているが、既存の調査結果ではその性格を決定づける成果がみられない状況であり、最も肝心な隣接する民地部分に未調査の地点を残している。当該地は駐車場などの盛土造成工事がすでに行われており、今後しばらくは発掘調査の対象となることは考えがたい部分であるが、未報告調査の資料精査などを通してその性格の解明に迫って行きたい。

参考文献

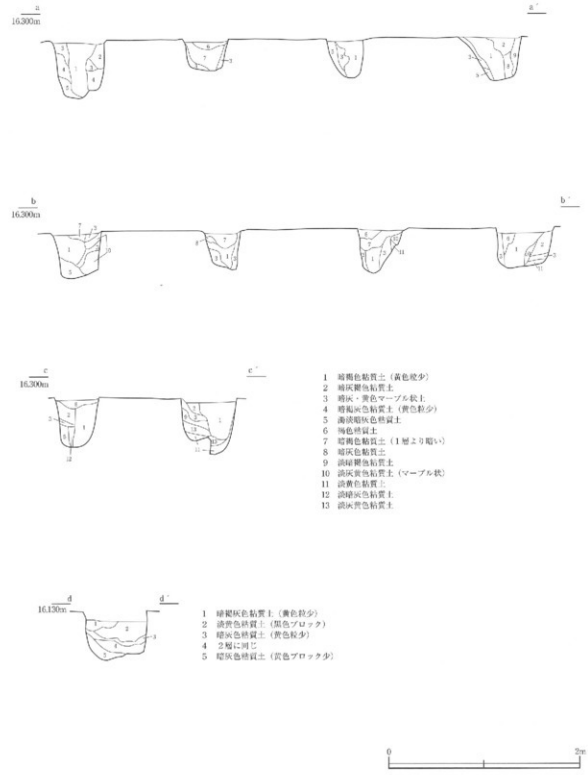
『野々市町史』通史編　第１章　原始・古代　　第４節　越前国から加賀立国へ
３　古代の道路とその背景　　石川県野々市町　2006



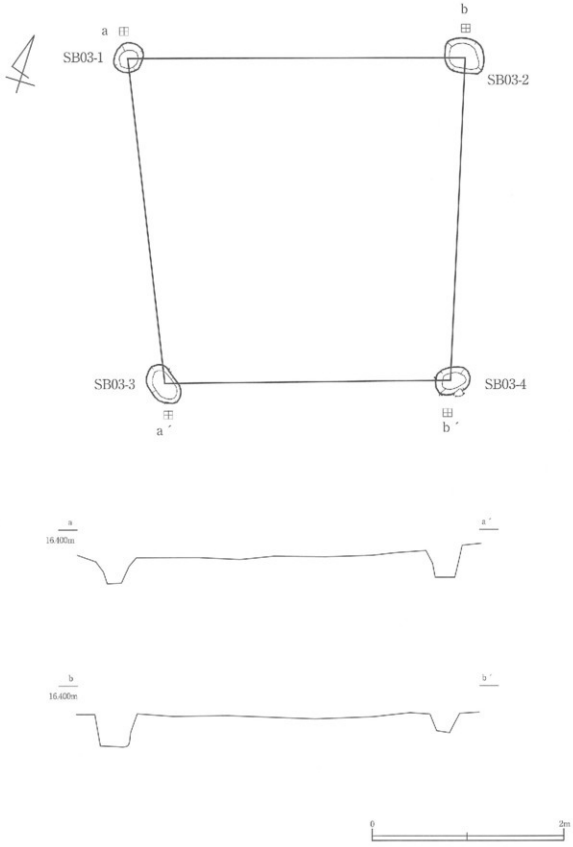
第 17 図　3区 SB01 遺構図・土層断面図（S=1/40）



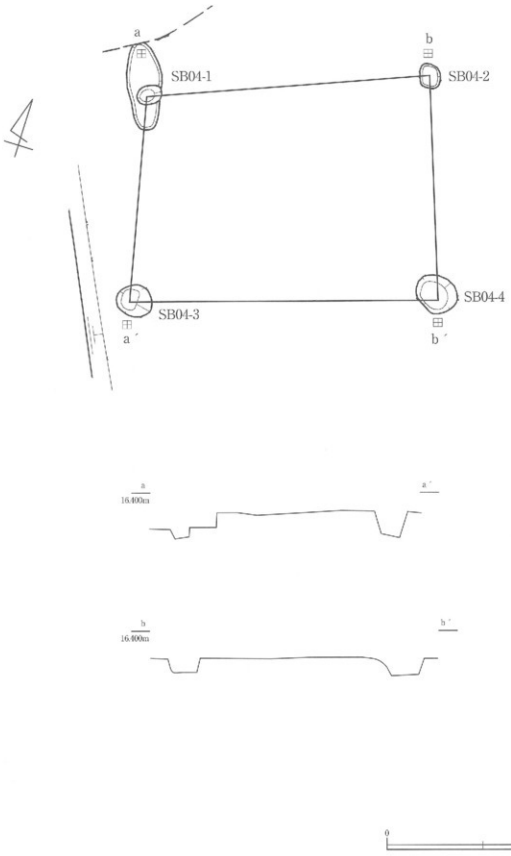
第 18 図　3区 SB02 遺構図・断面図 (S=1/40)



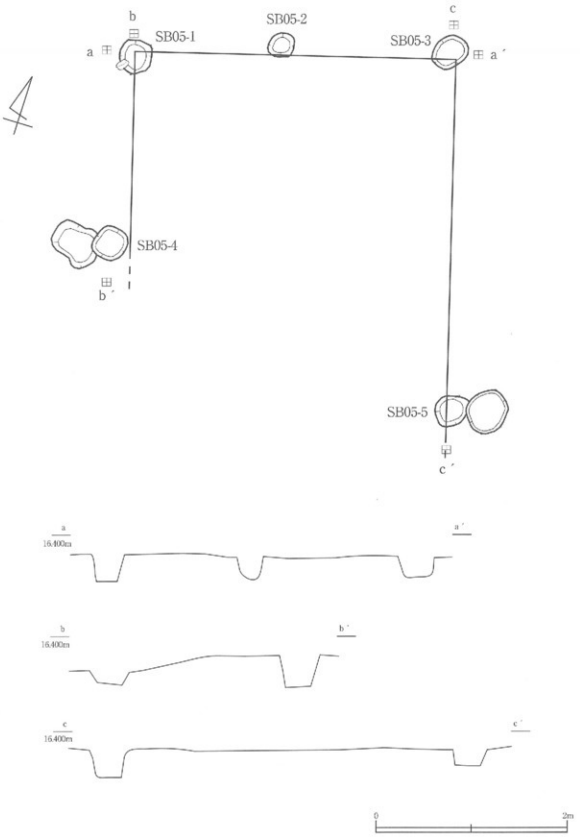
第 19 図　3区 SB02 土層断面図（S=1/40）



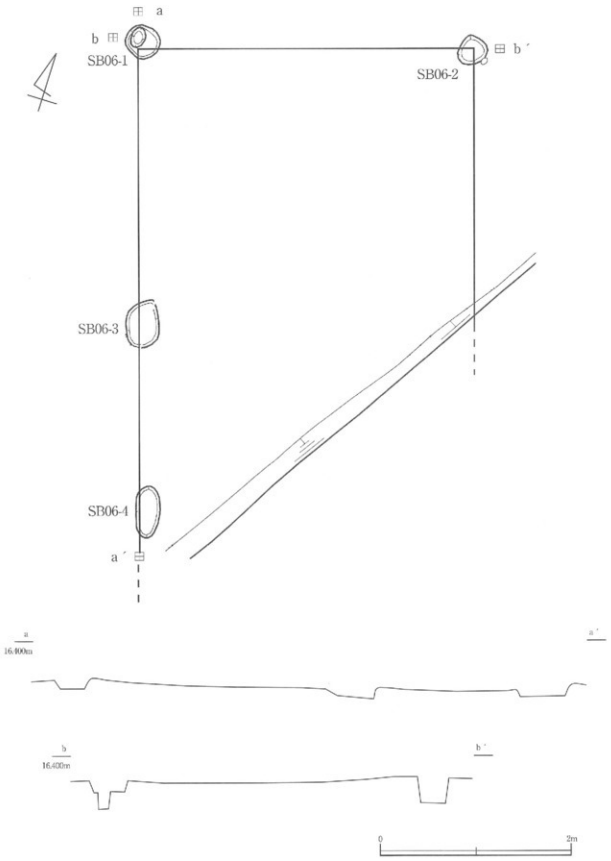
第 20 図　3区 SB03 遺構図・断面図（S=1/40）



第 21 図　3区 SB04 遺構図・断面図（S=1/40）

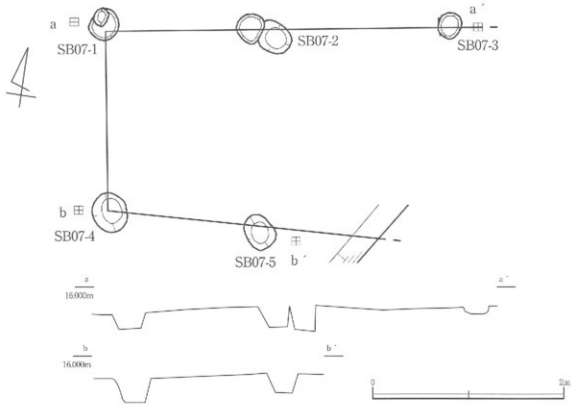


第 22 図　3区 SB05 遺構図・断面図 (S=1/40)

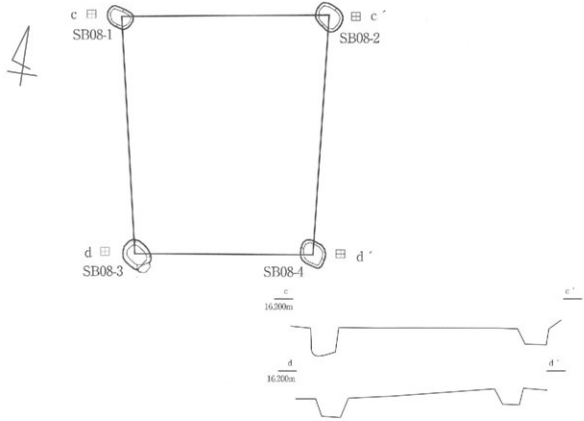


第 23 図　1区 SB06 遺構図・断面図 (S=1/40)

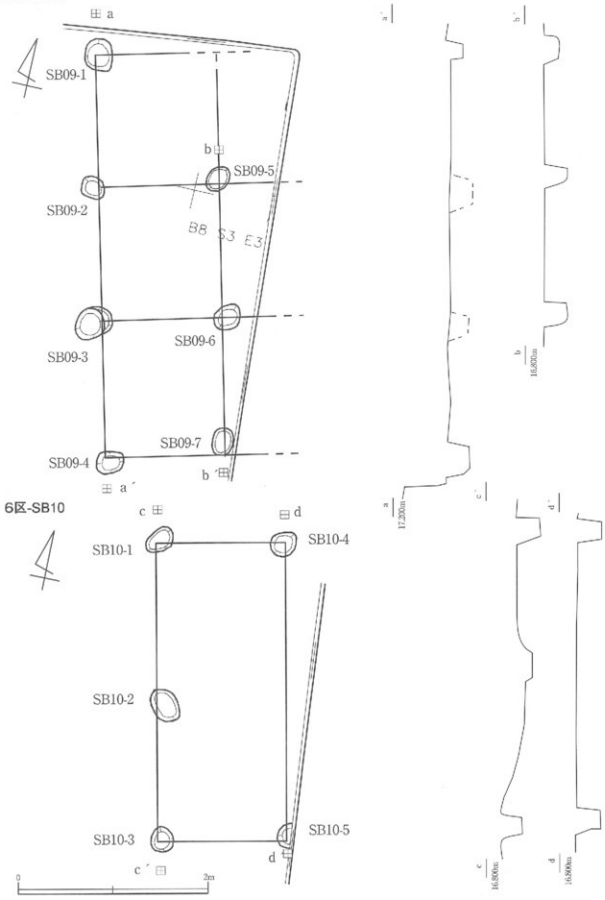
2区-SB07



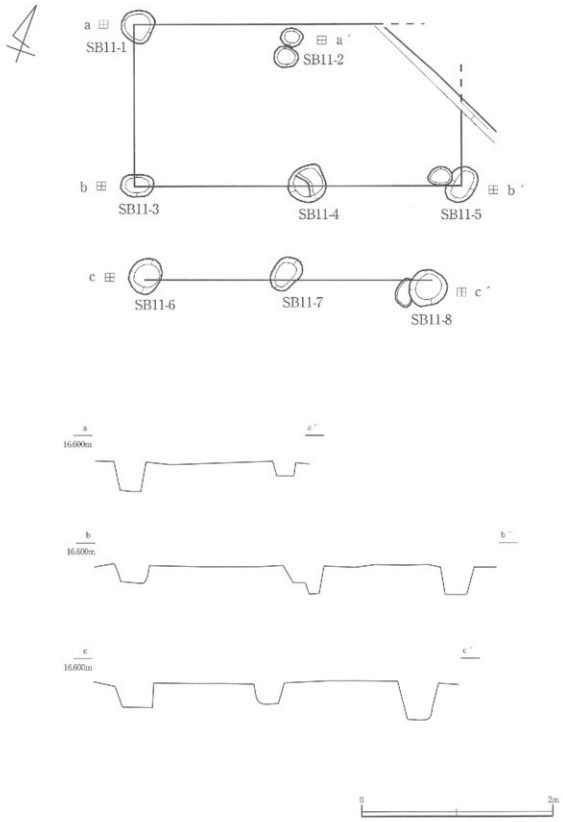
4区-SB08



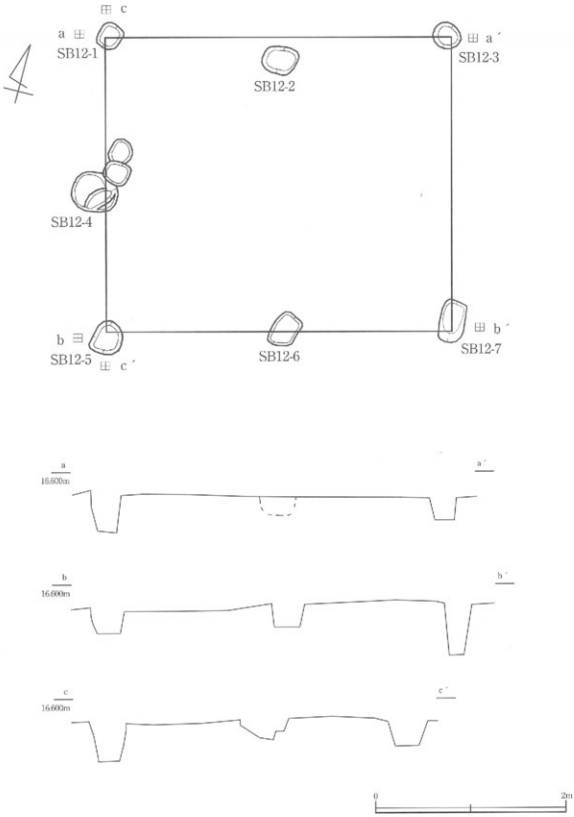
第 24 図　2区 SB07・4区 SB08 遺構図・断面図（S=1/40）



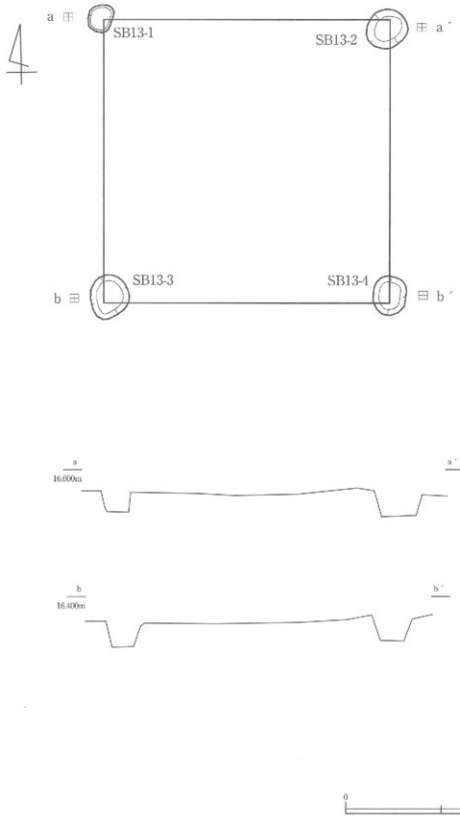
第 25 図　6 区 SB09・SB10 遺構図・断面図（S=1/40）



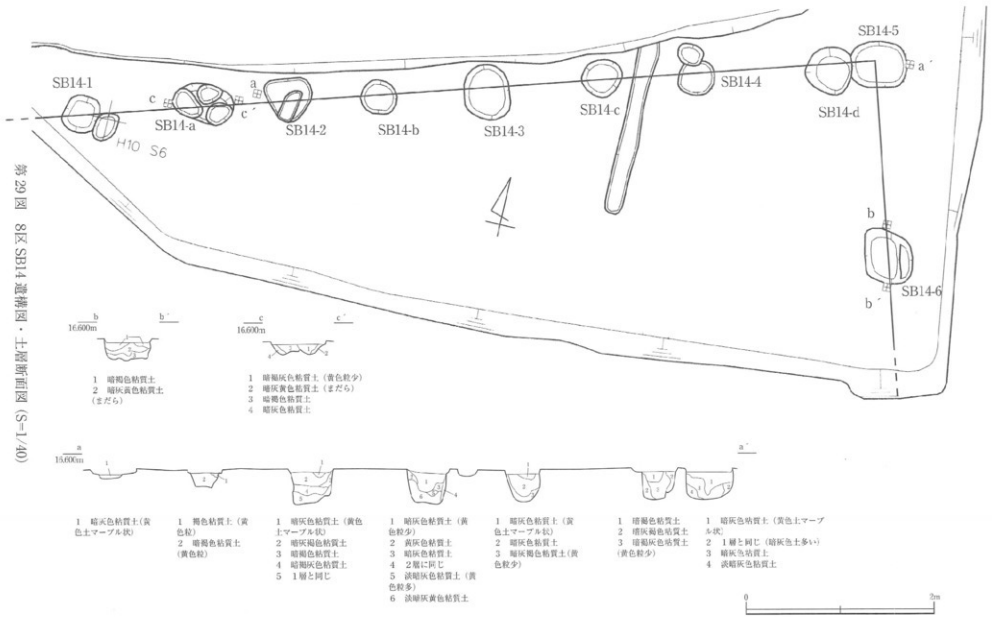
第 26 図　8区 SB11 遺構図・断面図（S=1/40）



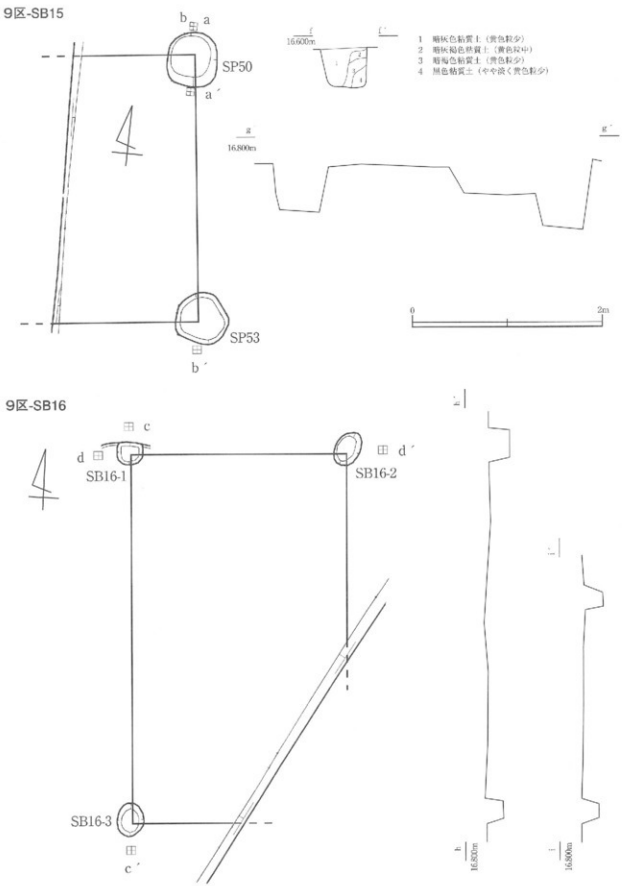
第 27 図　8区 SB12 遺構図・断面図 (S=1/40)



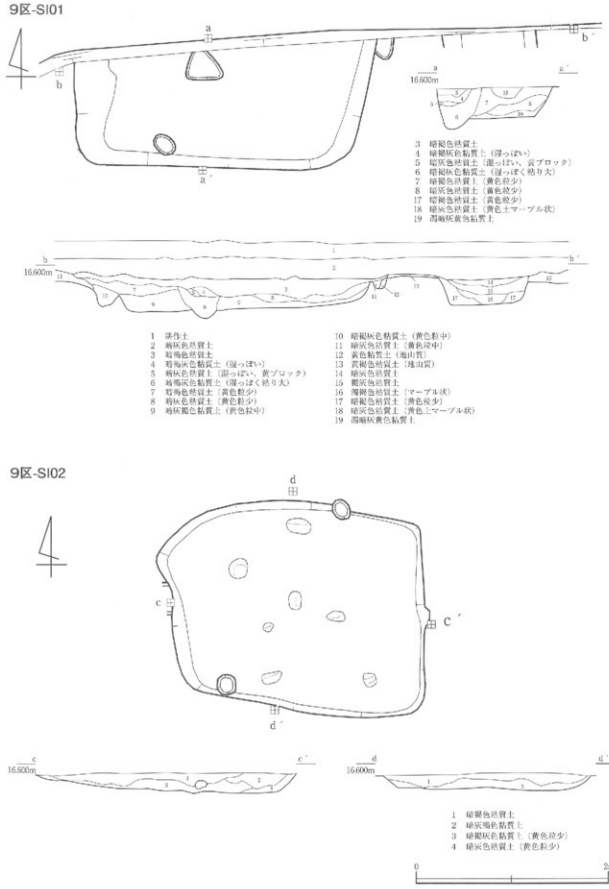
第 28 図　8区 SB13 遺構図・断面図（S=1/40）



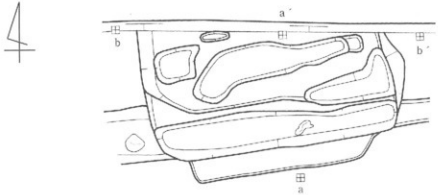
第29図 8区SB14遺構図・土層断面図(S=1/40)



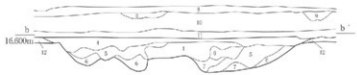
第 30 図　9区 SB15・10 区 SB16 遺構図・土層断面図（S=1/40）



第 31 図　9区 SI01・02 遺構図・土層断面図（S=1/40）



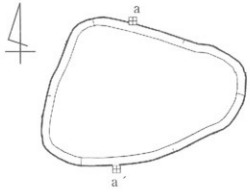
1 褐灰色砂質土（マーブル状）
2 暗灰色砂質土（黄色土マーブル状）
3 灰褐色砂質土（黄色土マーブル状）
4 暗灰色砂質土（黄色土塊状）
5 淡黄色砂質土（暗灰土マーブル状）
6 暗灰色砂質土（黄色土）
7 淡黄色土粘質土（地山質）

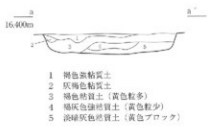


1 褐灰色粘質土（マーブル状）
2 暗灰色粘質土（黄色土マーブル状）
3 灰褐色粘質土（黄色土マーブル状）
4 暗灰色粘質土（黄色土塊状）
5 淡黄色粘質土（暗灰土マーブル状）
6 暗灰色粘質土（黄色土）
7 淡黄色土砂質土（地山質）
8 旧耕作土
9 暗灰褐色土
10 灰白色粘土
11 黄灰色粘土（床土）
12 灰褐灰色砂質土

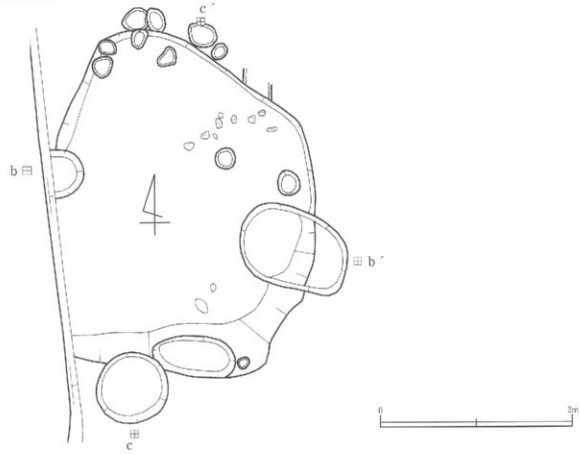
第 32 図　10 区 SI03 遺構図・土層断面図（S=1/40）

中央交差点-SK01

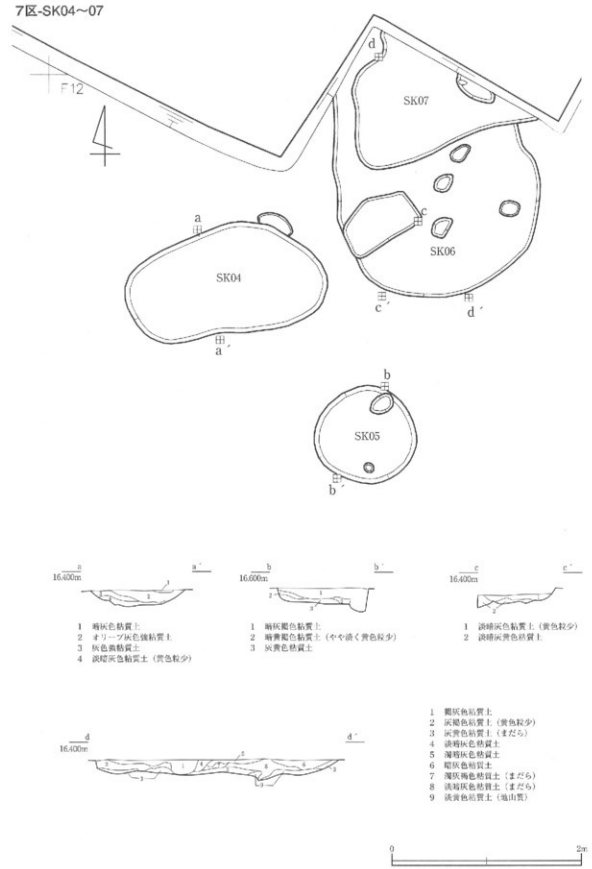




6区-SK03



第 33 図　中央交差点区 SK01・6区 SK03 遺構図・土層断面図（S=1/40）



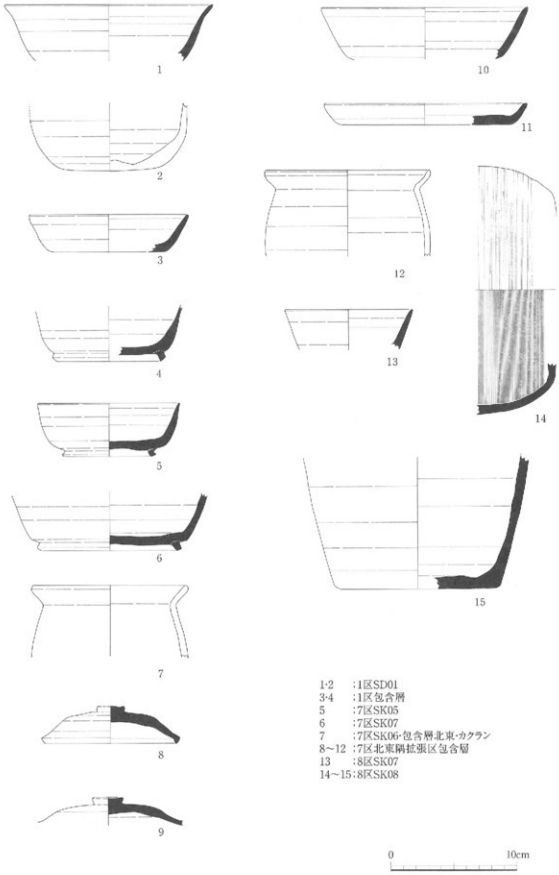
第 34 図　7区 SK04 ～ 07 遺構図・土層断面図（S=1/40）

第6表　掘立建物一覧表1

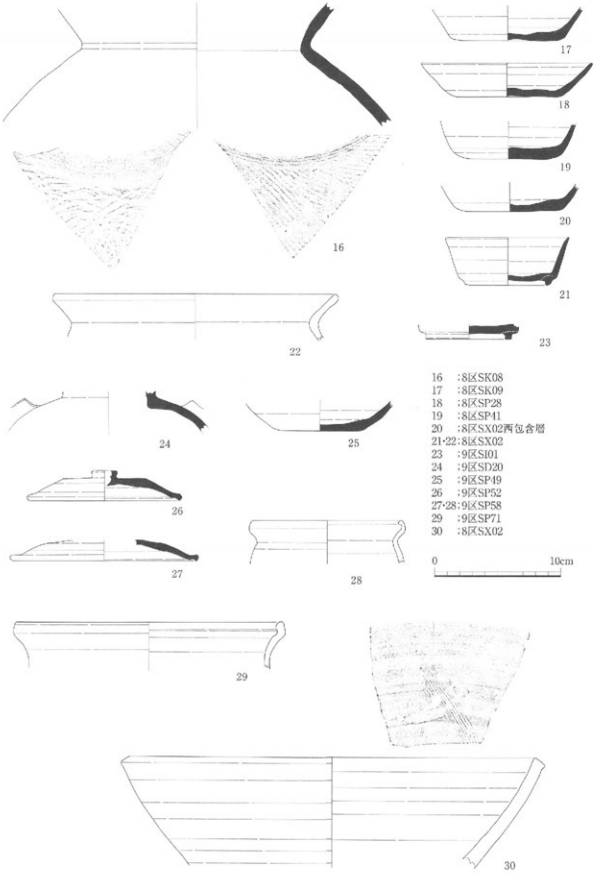
遺構	グリッド	軸	長軸 cm	短軸 cm	梁	桁	構成SP	長径 cm	短径 cm	深度 cm	遺物 掲載番号	その他
SB01		N-13-W	430	180+	3	1+	SB01-01	81	68	52	023	
							SB01-02	56	61	67		
							SB01-03	56	54	46		
							SB01-04	68	56	66		
							SB01-05	88	52	33		
							SB01-06	65	63	57		
							SB01-07	94	50	56		
							SB01-08	83	57	47		
SB02		N-18-W	418	410+	3	2+	SB02-01	54+	45	42		切り合い、新？
							SB02-02	49+	50	不明		切り合い、新？
							SB02-03	79	64	65		
							SB02-04	52	52	40		
							SB02-05	60	57	51		
							SB02-06	71	55+	48		切り合い
							SB02-07	96	42	44		
							SB02-08	63	57	48		
							SB02-09	85	65	47		
							SB02-10	35+	48	51		
							SB02-11	76+	58	61		
							SB02-12	66	66	56		
							SP04	65	60	48		
SB03		N-22-W	350	342	1	1	SB03-01	35	30	24		
							SB03-02	42	37	33		
							SB03-03	45	28	25		
							SB03-04	38	27	20		
SB04		N-24-W	290	215	1	1	SB04-01	28	19	22		
							SB04-02	26	19	14		
							SB04-03	38	15	24		
							SB04-04	44	41	28		
SB05		N-31-W	374	378	2	2	SB05-01	37	33	28		
							SB05-02	27	27	20		
							SB05-03	40	31	22		
							SB05-04	36	34	32		
							SB05-05	35+	32	13		
SB06		N-16-W	485+	334	2+	1	SB06-01	36	34	14		
							SB06-02	32	31	28		
							SB06-03	47	35	16		
							SB06-04	54	25	11		
SB07		E-10-N	200	335	1	2	SB07-01	33	32	14		
							SB07-02	35+	31	24		
							SB07-03	26	24	16		
							SB07-04	43	37	24		
							SB07-05	38	29	28		
SB08		N-11-W	247	210	1	1	SB08-01	28	21	23		
							SB08-02	31	23	24		
							SB08-03	33	27	24		
							SB08-04	27	25	19		

第6表　掘立建物一覧表2

遺構	グリッド	軸	長軸 cm	短軸 cm	梁	桁	構成SP	長径 cm	短径 cm	深度 cm	遺物 掲載番号	その他
SB09		N-15-W	430+	120+	3-	1+	SB09-01	35	28	21		
							SB09-02	25	23	20		
							SB09-03	33	31	25		
							SB09-04	28	25	20		
							SB09-05	30	23	23		
							SB09-06	31	25	23		
							SB09-07	29	21	15		
SB10		N-12-W	320	131+	2	1+	SB10-01	35	25	23		
							SB10-02	37	26	18		
							SB10-03	28	22	41		
							SB10-04	28	25	25		
							SB10-05	14+	25	23		
SB11		E-17-N			2	2	SB11-01	35	35	28		
		上	340	162			SB11-02	23	19	16		
		底	295	95			SB11-03	34	23	16		
							SB11-04	39	37	28		
							SB11-05	31	29+	27		
							SB11-06	39	34	25		
							SB11-07	40	29	23		
							SB11-08	41	37	36		
SB12		N-14-W	350	317	2	2	SB12-01	27	25	42		
							SB12-02	35	30	23		
							SB12-03	30	27	27		
							SB12-04	49	42	17		
							SB12-05	33	31	26		
							SB12-06	39	28	54		
							SB12-07	44	26	54		
SB13		N-1-W	301	296	1	1	SB13-01	29	25	19		
							SB13-02	44	39	26		
							SB13-03	43	42	29		
							SB13-04	40	35	25		
SB14		E-15-N	840+	200+	4+	1+	SB14-01	41	35	25		
							SB14-02	50	48	16		
							SB14-03	38	47	39		
							SB14-04	40	31-	42		切り合い
							SB14-05	56+	48	44		切り合い
							SB14-06	56	51	30		
							SB14-a	38	24	24		建替え？
							SB14-b	48	35	22		
							SB14-c	40	40	35		
							SB14-d	48	47	35		
SB15		N-8-W	280	不明	1	不明	SB15-01	57	53	47		
							SB15-02	57	54	65		
SB16		N-5-W	390+	225+	1+	1+	SB16-01	27	23	15		
							SB16-02	38	25	23		
							SB16-03	37	28	21		



第 35 図　出土遺物実測図 1（S=1/3）



第 36 図　出土遺物実測図 2 (S=1/3)

第7表　出土遺物観察表

図版番号	掲載番号	種別	器種	出土地点	口径 mm	底径 mm	器高 mm	遺存状	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	胎土	実測番号	備考
1	1	須恵器	坏	A 1区SD01	167			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	2.5Y6/1	2.5Y6/1	L1、S1	M079	
	2	土師器	短頸壺	A 1区SD01		79		3/5	ロクロナデ	ナデ	7.5YR5/3	7.5YR6/1	L1、M2、S2	M078	
	3	須恵器	坏A	A 1区包含層	125	90	30	1/4	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	5Y6/1	5Y6/1	M1、S2	M076	
	4	須恵器	坏B	A 1区包含層		90		1/8	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	N4/0	N5/0	M1、S2	M077	
	5	須恵器	坏B	A 7区SK05	113	74	43	3/4	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	10YR7/1	10YR7/1	L1、M2、S1	M080	
	6	須恵器	坏B	A 7区SK07		115		1/4	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	5Y6/1	5Y6/1	M1、S2	M081	
	7	土師器	長胴釜	A 7区SK06・包含層北東・カクラン	125			1/5	ロクロナデ	ロクロナデ	7.5YR6/3	7.5YR5/3	M2、S2	M082	
	8	須恵器	坏蓋	A 7区包含層	111		22	1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y7/1	5Y6/1	M1、S3	M084	
	9	須恵器	坏蓋	A 7区北東隅拡張区包含層				3/4	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y6/1	N4/0	M1、S3	M085	
	10	須恵器	坏	A 7区北東隅拡張区包含層	166			1/8	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y6/1	5Y6/1	M1、S1	M087	
	11	須恵器	甕	A 7区北東隅拡張区包含層	162	142	17	1/6	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	5Y7/1	5Y6/1	M1、S3	M086	
	12	土師器	短頸壺	A 7区北東隅拡張区包含層	132			1/5	ロクロナデ	ロクロナデ	7.5YR6/2	7.5YR6/2	L1、M2、S2	M083	
	13	須恵器	坏	A 8区SK07	110			1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	10YR5/1	5Y6/1	L1、S2	M091	
	14	須恵器	横瓶	A 8区SK08				小片	カキメ	カキメ	2.5Y6/1	2.5Y6/1	L1、M3、S2	M089	
	15	須恵器	甕	A 8区SK08		132		1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	7.5Y4/1	2.5Y6/1	M1、S3	M090	
2	16	須恵器	壺	A 8区SK08				1/5	ロクロナデ、平行タタキ	ロクロナデ、同心円タタキ	2.5Y6/1	10YR6/1	M2、S3	M088	
	17	須恵器	坏A	A 8区SK09		87		1/4	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y7/1	2.5Y7/1	M2、S2	M092	
	18	須恵器	坏A	A 8区SP28	137	90	27	1/2	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y7/2	2.5Y7/2	M3、S3	M097	
	19	須恵器	坏A	A 8区SP41		84		1/2	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	5Y7/1	5Y7/1	M1、S2	M098	
	20	須恵器	坏A	A 8区SX02西包含層		83		1/4	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y6/1	2.5Y6/1	M1、S3	M093	
	21	須恵器	坏B	A 8区SX02	98	68	38	1/2	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	7.5Y4/1	5Y6/1	S3	M094	
	22	土師器	長胴釜	A 8区SX02	228			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	10YR8/4	10YR8/4	M1、S3	M095	
	23	須恵器	坏B	A 9区SD01		68		1/2	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	5Y5/1	5Y5/1	M1、S3	M099	
	24	須恵器	双耳?瓶	A 9区SD20				1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y6/1	N6/0	M1、S3	M100	
	25	須恵器	坏A	A 9区P49		69		1/4	ロクロナデ、底部ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y8/2	10YR4/3	L1、M1、S2	M101	
	26	須恵器	坏蓋	A 9区P52	124		24	1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y6/1	5Y5/1	M1、S3	M105	
	27	須恵器	坏蓋	A 9区P58	150			1/8	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y6/1	5Y6/1	L1、M2、S2	M103	
	28	土師器	短頸壺	A 9区P58	121			1/8	ロクロナデ	ロクロナデ	10YR5/3	7.5YR3/1	M1、S2	M102	煤
	29	土師器	長胴釜	A 9区P71	215			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	7.5YR8/4	7.5YR6/6	M2、S2	M104	煤
	30	陶器	片口鉢	A 8区SX02	333			1/8	ロクロナデ	ロクロナデ、櫛状調目	5Y5/1	10Y7/1	L1、M2、S3	M096	珠洲

注記　法量の数値は遺存値の項目に「完」とない場合はすべて復元径である
遺存値に示した数値は、実測図に表された範囲内での遺存値であり、器形全体に対するものではない
調整　「ヨコナデ・ケズリ」であれば、ヨコナデを行ったのちケズリを行っていることを示す
　　併記の場合は同一器面で調整が異なる場所があることを示す
色調　「新版　標準土色帳」に準拠
胎土　アルファベットは鉱物粒子の大きさ。S（径1mm以下）M（径1～3mm）L（径3mm以上）
　　数値は鉱物粒子の量。0（ほとんど含まない）1（少量含む）2（やや多い）3（多い）
須恵器・土師器の器種名は小松市教育委員会2006～2010『御見町遺跡Ⅰ～Ⅴ』を参考にした
珠洲焼の器種名は吉岡康暢1994『中世須恵器の研究』(吉川弘文館）を参考にした

第8章　第25次（平成18年度）調査

第1節　調査の経過

第1項　調査に至る経緯

第25次調査は、遺跡推定地の範囲内において、遺構面までの保護層が薄く、区画整理事業そのものを行う時点で遺構が破壊されてしまう可能性が高い民地部分に係る調査であり、平成12年に締結した協定書により当初の発掘調査計画に盛り込まれていたものである。

平成18年3月20日付で石川県教育委員会に発掘調査届を提出し、4月10日より現地における調査に着手した。

第2項　発掘調査の経過

4月10日に調査区の設定を行った後、4月12日より1区から3区までの表土除去に着手した。今次の調査は場所が大きく離れており、地点によって1～4区の調査区を設定した。表土の除去は、包含層上面までの除去を基本とし、以下の遺構検出面までは人力により慎重に掘り下げる手法を取った。4月17日より1区の包含層掘り下げを開始し、遺構検出と同時に略測図の作成を行い、25日より遺構の掘削に着手、5月1日に終了した。同8日には2区の包含層掘り下げに着手し、26日に遺構の掘削までを終了、同日より3区の包含層掘り下げに着手している。その後6月7日には1～3区におけるすべての作業を完了し、翌8日に空中写真測量を実施した。

4区については6月7日より表土除去作業に着手したが、周囲が完全に道路に囲まれている状況であり、排土を搬出する場所も確保することができなかったため、西と東の半分ずつに分けて調査を行うこととなった。6月13日よりまず西側部分の包含層掘り下げに着手し、7月26日にすべての作業を完了して空中写真測量を実施した。その後埋め戻しと東側部分の表土除去を並行して行い、東側部分の包含層掘り下げには8月17日に着手、9月13日にすべての作業を終了し空中写真測量を実施し第25次の現地調査を完了した。

出土品の整理作業については平成23年度に実施し、平成24年3月30日をもって報告書の刊行を含むすべての作業を完了した。

第2節　遺構（第37～45図）

古代の遺構は1・2区に集中しており、竪穴建物5棟、掘立柱建物7棟などが集中している。多くの竪穴建物を確認した第18・19次調査区に近く、周辺は三日市A遺跡における古代の中心部分と考えられる。3区については遺構密度が非常に希薄であり、出土遺物もほとんどみられなかったが、わずかに出土した細片は中世期に降るものであった。また、4区については中央西側を南北に走る小溝によって東西に区画されており、西側には小穴群や若干の土坑がみられ、東側には畝間溝と思われる溝遺構が多く存在する。また、全域で縄文土器の小片が地山内より散見されたが、覆土の判別はかなわなかった。主な遺構の詳細については遺構観察表（第9表）を参照願いたい。

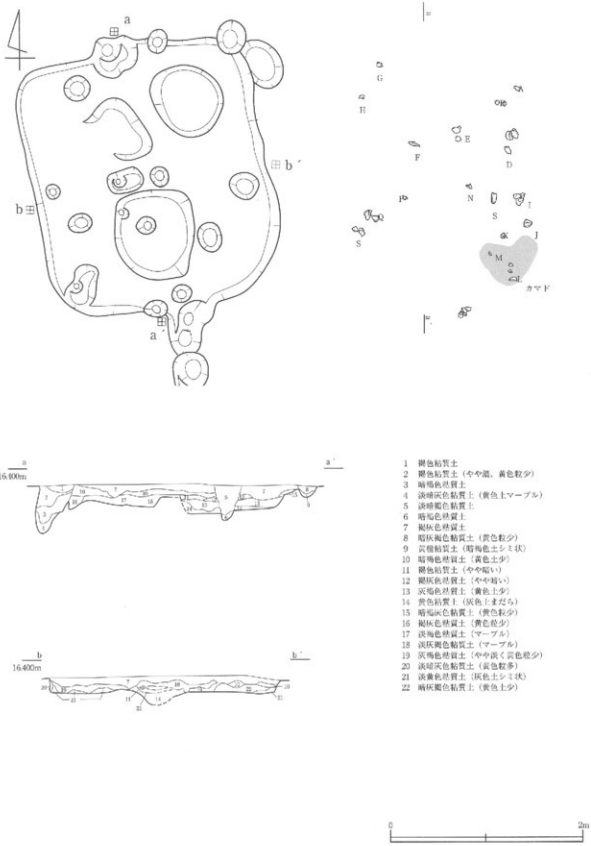
第3節　遺物（第46～49図）

遺物は70点掲載した。ほとんどが1・2区で出土したものであり、4区から出土したものは9点である。いずれも9世紀半頃のものであり、4区では他に中世期の小皿小片が多い。詳細については遺物観察表（第10表）でご確認願いたい。

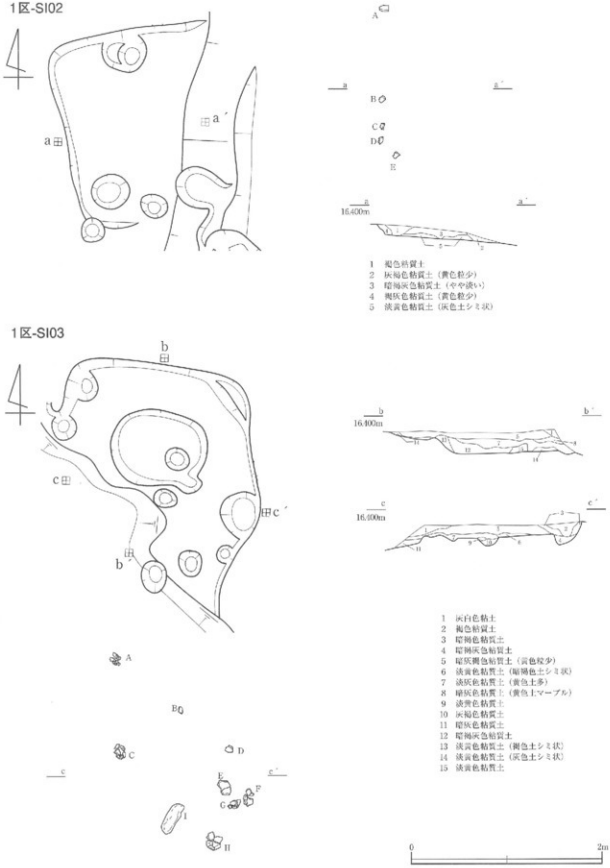
第4節　小結

今次の調査で、1・2区については三日市A遺跡における古代の遺構分布範囲の中心であり、隣接する調査区からは他にも多くの掘立柱建物が検出されている。また、3区については掲載した遺物に

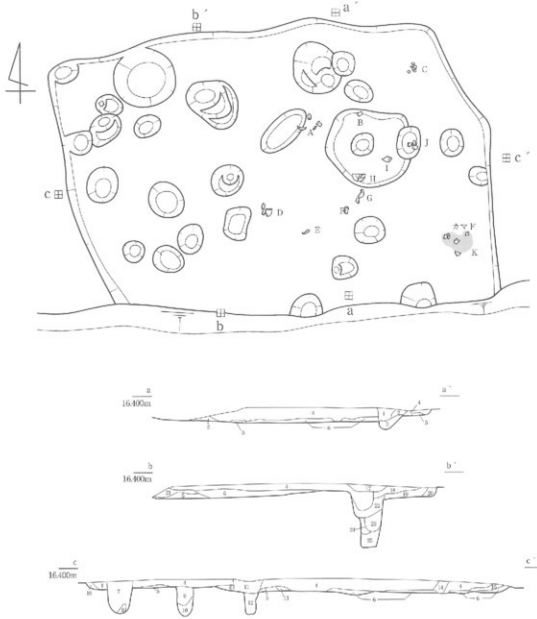
ついては古代のものであるが、遺構の性格としては中世のものが多い。本遺跡は南傾一帯に中世期の集落の中心があり、この調査区についてはその範囲の北限に近いものと思われる。4区についても中世期の集落範囲に含まれるものである。いずれにしても、今後は調査原因の垣根を越えて地区ごとの遺構図を合成し、全体として遺跡の広がりを把握する必要がある。このことは、本遺跡の南傾に走る古代北陸道を中心として、三日市A遺跡がどのように機能していたのかを知るためには不可欠の作業である。



第 37 図　1 区 SI01 遺構図・土層断面図（S=1/40）



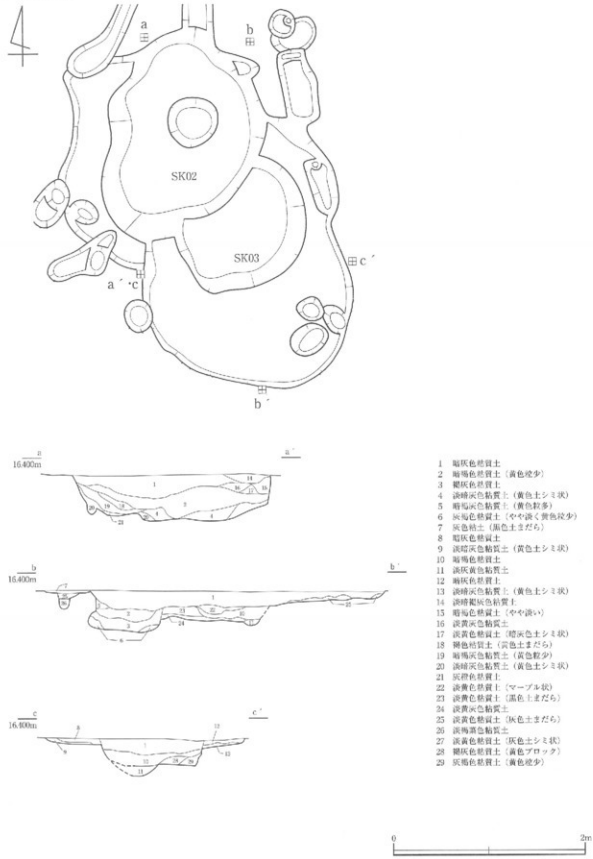
第 38 図　1 区 SI02・03 遺構図・土層断面図（S=1/40）



1 褐灰色粘質土（黄色土まだら）
2 淡黄色粘質土（暗灰色土シミ状）
3 暗灰褐色粘質土
4 暗褐灰色粘質土（黄色土少）
5 淡黄色地質土
6 黄橙褐質土（暗灰色土シミ状）
7 暗褐灰色粘質土（黄色粒少）
8 淡黄色ブロック
9 灰褐色砂質土（黄色粒少）
10 褐色粘質土（やや硬い）
11 褐灰色粘質土（黄色粒少）
12 灰褐色粘質土（黄色粒少）
13 淡褐灰色粘質土（黄色粒少）
14 褐灰色粘質土（黄色粒少）
15 淡黄褐色粘質土
16 淡黄灰色粘質土（まだら）
17 暗灰褐色砂質土（黄色土少）
18 淡黄色粘質土（暗灰色土シミ状）
19 灰黄色粘質土（まだら）
20 暗灰褐色砂質土（黄色粒少）
21 淡黄色粘質土（灰色土シミ状）
22 淡褐灰色粘質土（黄色土シミ状）
23 暗灰色粘質土（黄色粒少）
24 淡灰黄色砂質土（まだら）
25 淡褐灰色砂質土（黄色土シミ状）

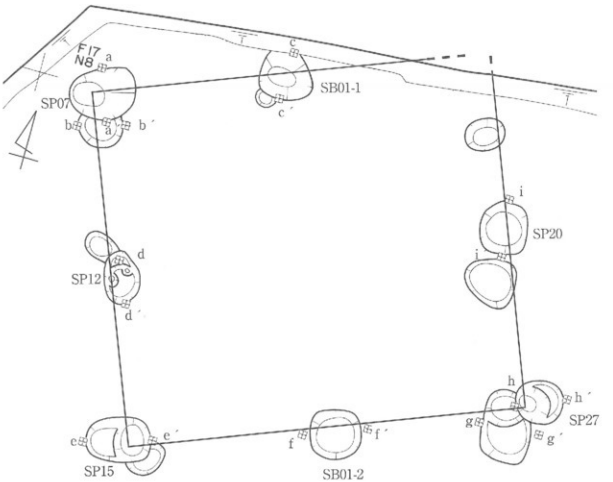
第 39 図　1 区 SI04 遺構図・土層断面図（S=1/40）

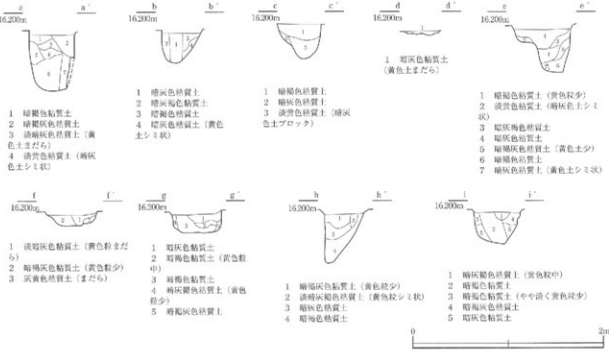
1区-SK02·03



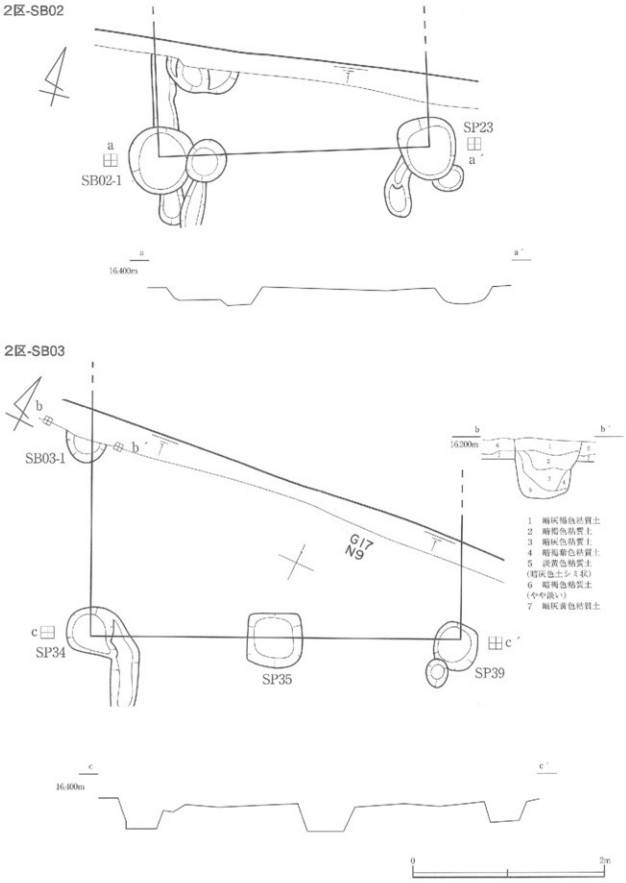
1 暗灰色粘質土
2 暗褐色粘質土（黄色粒少）
3 暗灰色粘質土
4 淡暗灰色粘質土（黄色土シミ状）
5 暗褐灰色粘質土（黄色粒多）
6 灰褐色粘質土（やや淡く黄色粒少）
7 灰色粘土（黒色土まだら）
8 暗灰色粘質土
9 淡暗灰色粘質土（黄色土シミ状）
10 暗褐色粘質土
11 淡灰黄色粘質土
12 暗灰色粘質土
13 淡暗灰色粘質土（黄色土シミ状）
14 淡暗褐灰色粘質土
15 暗褐色粘質土（やや淡い）
16 淡黄灰色粘質土
17 淡黄色粘質土（暗灰色土シミ状）
18 褐色粘質土（灰色土まだら）
19 暗褐灰色粘質土（黄色粒少）
20 淡暗灰色粘質土（黄色土シミ状）
21 灰褐色粘質土
22 淡黄色粘質土（マーブル状）
23 淡黄色粘質土（黒色土まだら）
24 淡黄灰色粘質土
25 淡黄色粘質土（灰色土まだら）
26 淡褐黒色粘質土
27 淡黄色粘質土（灰色土シミ状）
28 暗灰色粘質土（黄色ブロック）
29 灰褐色粘質土（黄色粒少）

第 40 図　1 区 SK02・03 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

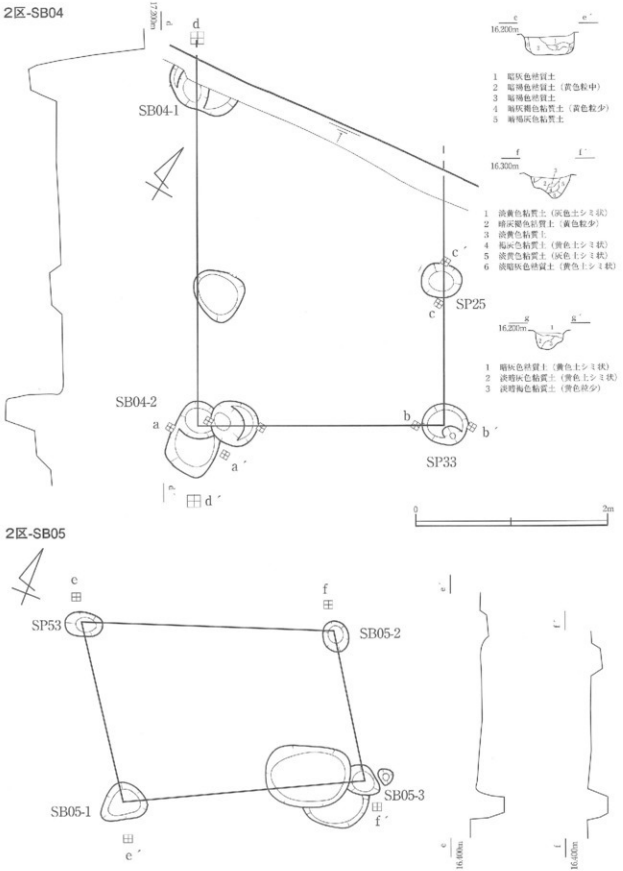




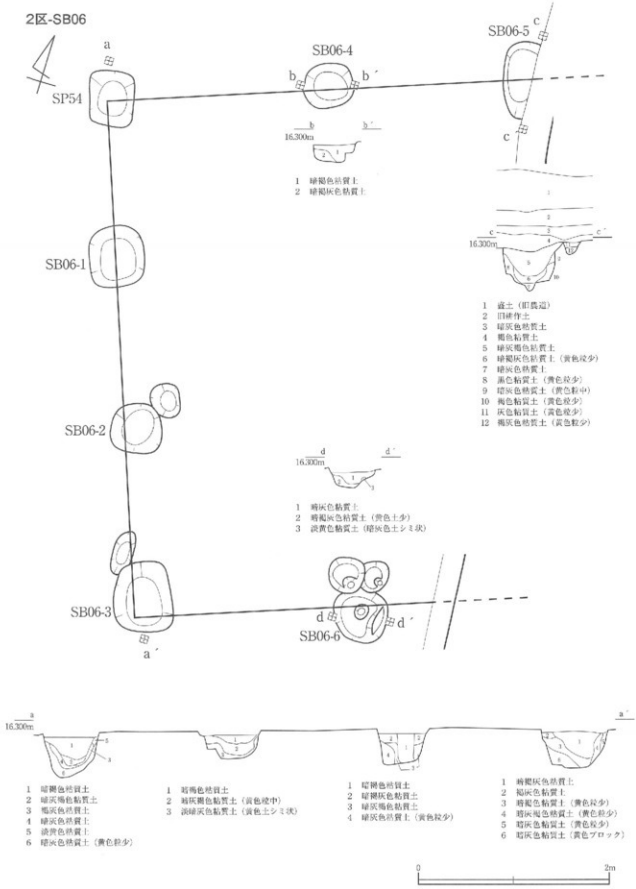
第41図　2区 SB01 遺構図・土層断面図（S=1/40）



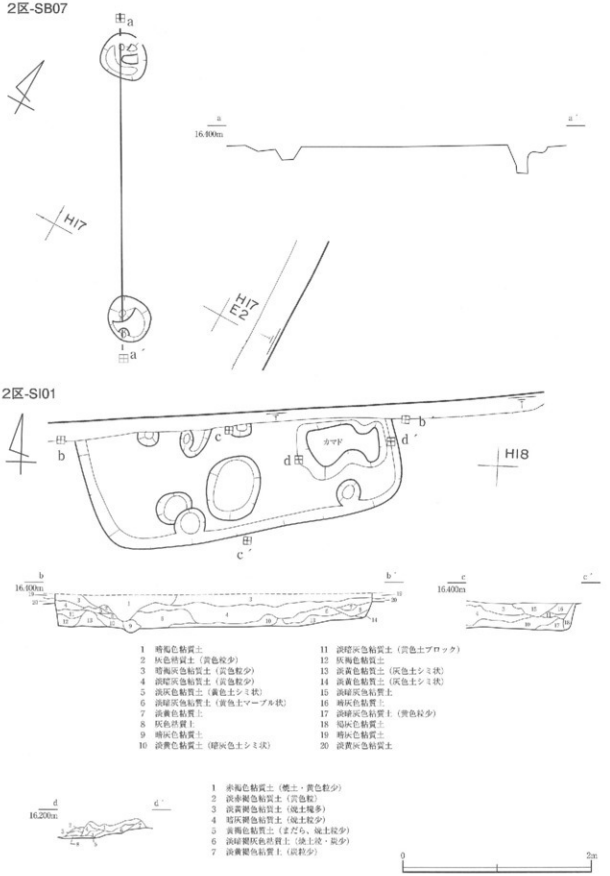
第 42 図　2 区 SB02・03 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



第 43 図　2 区 SB04・05 遺構図・土層断面図（S=1/40）



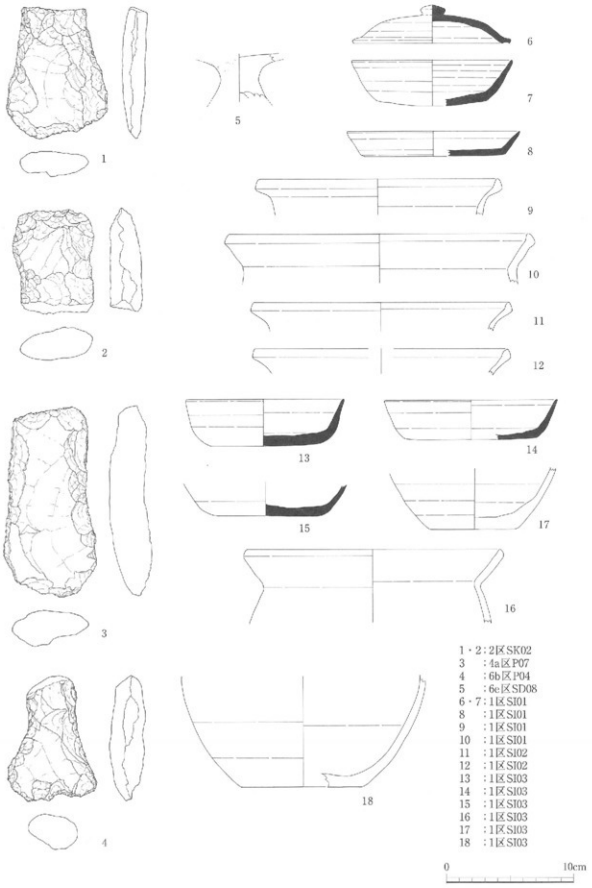
第 44 図　2 区 SB06 遺構図・土層断面図（S=1/40）



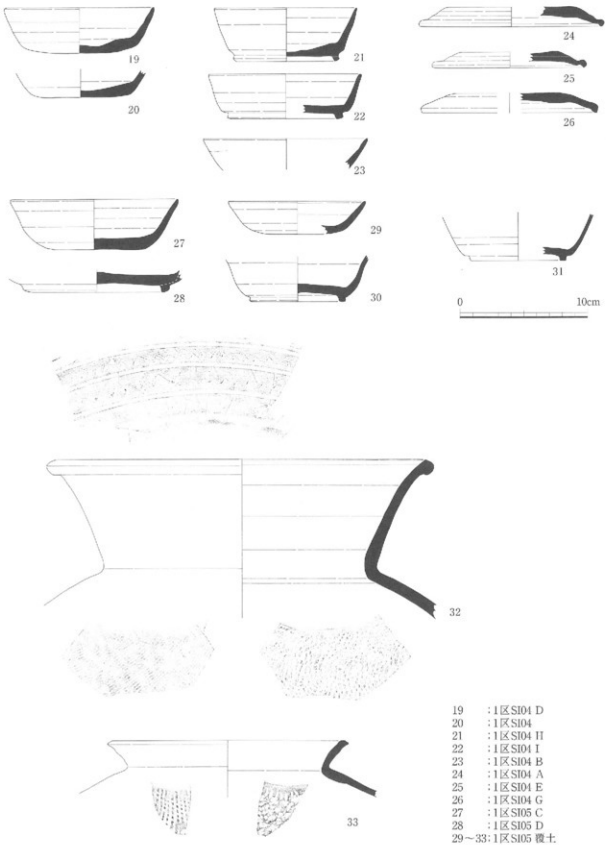
第 45 図　2 区 SB07・SI01 遺構図・土層断面図（S=1/40）

第8表　遺構観察表

区	遺構名	グリッド	長径cm	短径cm	深度cm	セクションNo	遺物掲載番号	その他
1	1区-SI01		271	250	16		006～010	方形部のみ
1	1区-SI02		208+	171+	15		011・012	切り合い
1	1区-SI03		254+	196+	17		013～018	切り合い
1	1区-SI04		444	311+	9		019～026	調査区外
1	1区-SK01						027～033	不明
1	1区-SK02		234+	165+	54			切り合い
1	1区-SK03		141	94+	30		034	切り合い
1	1区-SD01		165	37	11			
1	1区-SD02							不明
1	1区-SD03		117	32	12			
1	1区-SD04		165	31	10			
1	1区-SD05		97	32	10			
1	1区-SD06		523+	34	6			切り合い
2	2区-SI01		412	378	66			
2	2区-SI02		—	284	20			調査区外
2	2区-SI03		—	388	33			調査区外
2	2区-SI04		—	256	38			調査区外
2	2区-SI05		252	192	36			?
2	2区-SI06		546	(436)	50			調査区外
2	2区-SI07		(440)		32			調査区外
2	2区-SI01		328	—	36		038・039	調査区外
2	2区-SK01		92	76	12		041	
2	2区-SK02		137	111+	33		001・002	切り合い
2	2区-SK03		89	83	10			
2	2区-SK04		87	58+	48		042	調査区外
2	2区-SK05		85	65	14		043	
2	2区-SD01		212	44	9			
2	2区-SD02		300+	32	20		040	調査区外
2	2区-SD03		65+	24	7			切り合い
2	2区-SD04		171+	30	4			切り合い
2	2区-SD05		125	18	4			
2	2区-SD06		308	33	9			
3b	3区-SD01		351	15～85	1			礫群
3b	3区-SD02		1365+	38～54	12			切り合い
3b	3区-SX01		283	265	26			
4	4区-SK01		177+	67	13			調査区外
4	4区-SX01		325	230	6			
4	4区-SX02		208+	131+	10			切り合い、礫群
4	4区-SD01		1370+	71	4			調査区外
4	4区-SD02		1264+	79	9			切り合い
4	4区-SD03		110	38	11		057	
4	4区-SD04		823+	41～110	8			調査区外
4	4区-SD05		885+	41～85	10			調査区外
4	4区-SD06		398	35	10			
4	4区-SD07		846+	25～30	10		058	調査区外
4	4区-SD08		729+	29～45	6			切り合い、調査区外
4	4区-SD09		320+	32	7			切り合い、調査区外
4	4区-SD10		391+	51	7			切り合い、調査区外
4	4区-SD11		142+	28	6			切り合い
4	4区-SD12		410+	50	8		059	切り合い

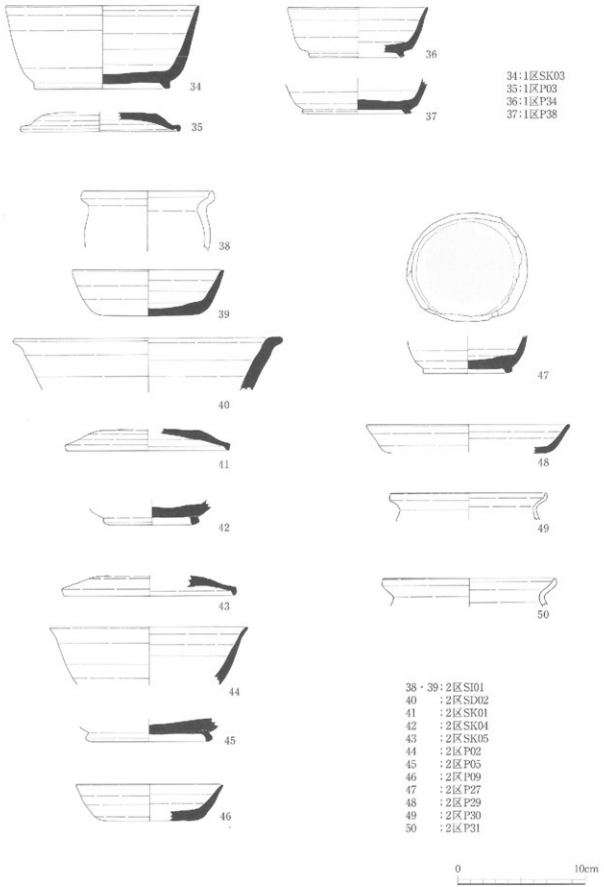


第46図　出土遺物実測図1（S=1/3）

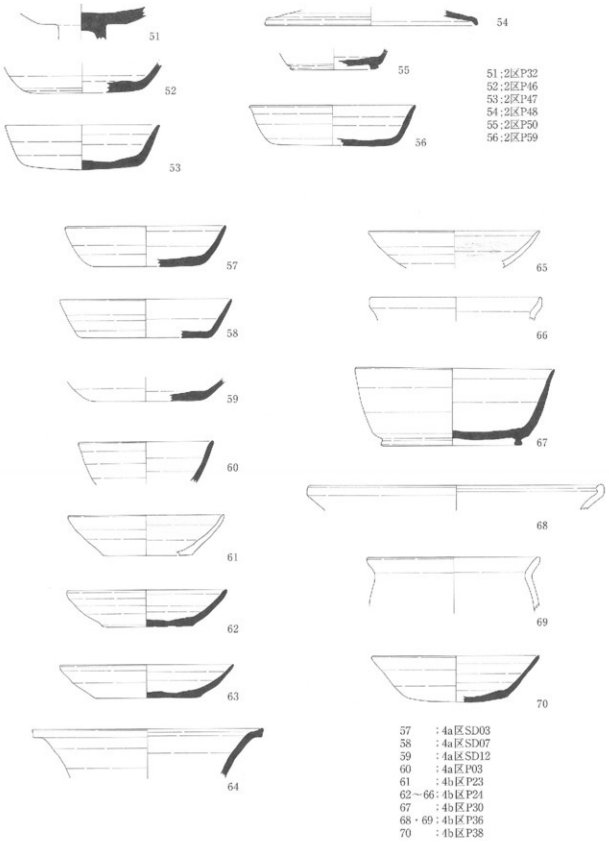


19　：1区SI04 D
20　：1区SI04
21　：1区SI04 H
22　：1区SI04 I
23　：1区SI04 B
24　：1区SI04 A
25　：1区SI04 E
26　：1区SI04 G
27　：1区SI05 C
28　：1区SI05 D
29～33：1区SI05 覆土

第47図　出土遺物実測図2（S=1/3、32・33はS=1/4）



第48図　出土遺物実測図3（S=1/3）



第 49 図　出土遺物実測図 4（S=1/3）

第９表　出土遺物観察表１

図版番号	掲載番号	種別	器種	出土地点	口径 mm	底径 mm	器高 mm	遺存値	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	胎土	実測番号	備考
1	1	石製品	打製石斧	2区 SK02	総大長(103)、幅80、厚21、重183g									M040	欠損
	2	石製品	打製石斧	2区 SK02	総大長(81)、幅65、厚35、重197g									M041	欠損
	3	石製品	打製石斧	4a区 SP07	総大長150、幅74、厚30、重431g									M063	
	4	石製品	打製石斧	6b区 SP04	総大長(97)、幅64、厚26、重176g									M080	欠損
	5	弥生土器	甕片	6e区 SD08				完	ハケ→ミガキ	ミガキ	10YR6/6	10YR6/6	L1、M2、S2	M089	
	6	須恵器	坏身	1k区 SI01 C	124		28	1/2	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y5/1	5Y6/1	L1、M2	M001	
	7	須恵器	坏A	1区 SI01 C	126	87	31	1/4	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y7/2	2.5Y7/1	L1、M1、S2	M002	
	8	須恵器	盤	1区 SI01 U	136	113	25	1/4	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	5Y4/1	2.5Y5/1	L1、M1、S2	M007	
	9	土師器	甕	1k区 SI01 I	190			小片	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/4	10YR8/4	M1、S2	M003	
	10	土師器	甕	1区 SI01 T	237			1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7/4	5YR7/4	M2、S3	M006	煤
	11	土師器	甕	1区 SI02 A	204			小片	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3	10YR7/3	M1、S2	M008	煤
	12	土師器	甕	1k区 SI02 C	200			小片	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/4	7.5YR7/4	M1、S3	M009	
	13	須恵器	坏A	1区 SI03 C	125	87	38	4/5	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y7/2	2.5Y7/2	L1、M1、S2	M012	
	14	須恵器	坏A	1区 SI03 D	136	107	32	1/5	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	10YR8/2	10YR8/2	M2、S3	M010	
	15	須恵器	坏A	1区 SI03 H		98		1/2	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	10YR8/2	10YR8/2	M1	M015-1	炭化物
	16	土師器	釜	1区 SI03 A	206			1/5	ヨコナデ、ロクロナデ	ヨコナデ、ロクロナデ	10YR5/1	10YR8/3	L1、M2、S1	M011	煤
	17	土師器	小釜	1区 SI03 E		67		完	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	7.5YR6/3	7.5YR6/3	L1、M2、S3	M013	
	18	土師器	釜	1k区 SI03 F		96		1/3	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	7.5YR5/2	10YR8/3	L1、M2、S2	M014	炭化物
2	19	須恵器	坏A	1区 SI04 D	118	96	36	2/3	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	10YR6/1	7.5YR7/3	L1、M1、S2	M020	
	20	須恵器	坏A	1区 SI04		78		1/4	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y6/1	2.5Y6/1	L1、M1、S2	M025	
	21	須恵器	坏B	1k区 SI04 H	112	83	43	4/5	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	5Y6/1	5Y6/1	L1、M1、S3	M023	
	22	須恵器	坏B	1区 SI04 I	120	90	36	1/3	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	5Y4/1	5Y5/1	M1、S3	M024	
	23	須恵器	坏	1k区 SI04 B	129			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	2.5Y6/1	2.5Y6/1	M1、S3	M019	
	24	須恵器	坏蓋	1区 SI04 A	146			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y6/1	5Y6/1	M1、S3	M018	
	25	須恵器	坏蓋	1区 SI04 E	122			1/8	ロクロナデ	ロクロナデ	10YR6/1	10YR6/1	M1、S3	M021	
	26	須恵器	坏蓋	1区 SI04 G	137			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	10YR6/1	10YR6/1	M2、S2	M022	
	27	須恵器	坏A	1区 SI05 C	133	40	80	3/4	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	10YR6/1	10YR6/1	L1、M2、S2	M074	
	28	須恵器	坏B	1区 SI05 D		116		1/4	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	10YR7/1	10YR7/1	L1、M2、S3	M075	墨痕
	29	須恵器	坏A	1k区 SI05 B 覆土	108	77	27	小片	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	10YR6/1	10YR6/1	S2	M029	
	30	須恵器	坏B	1区 SI05 B		75		1/4	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y5/1	2.5Y5/1	L1、S3	M028	
	31	須恵器	坏B	1k区 SI05 B 覆土		75		1/8	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	5Y5/1	5Y5/1	S2	M030	
	32	須恵器	甕	1区 SI05 B	403			1/6	ロクロナデ、平行タタキ	ロクロナデ、円形タタキ	N4/6	5Y5/1	L1、M2、S3	M027-1	
	33	須恵器	壺or甕	1区 SI05 覆土	253			小片	ロクロナデ、平行タタキ	ロクロナデ、円形タタキ	2.5Y6/1	2.5Y6/1	M2、S3	M027-2	
3	34	須恵器	坏B	1区 SK03	152	107	67	1/5	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	7.5YR5/1	7.5YR5/1	M2、S3	M033	
	35	須恵器	坏蓋	1k区 P03	127			1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y5/1	5Y5/1	L1、M1、S2	M034	
	36	須恵器	坏B	1区 P34	110	75	40	小片	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	N7/0	N7/0	M1、S3	M035	
	37	須恵器	坏B	1k区 P38		87		1/6	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	7.5Y5/1	7.5Y5/1	M1、S3	M036	
	38	土師器	小釜	2区 SI01	102			1/6	ロクロナデ	ロクロナデ	7.5YR3/3	7.5YR2/2	M2、S2	M031	煤、炭化物
	39	須恵器	坏A	2区 SI01	119	87	37	1/2	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	10YR7/1	10YR7/1	L1、M1、S2	M032	
	40	須恵器	坏蓋	2区 SD02	214			1/6	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y5/1	5Y5/1	M2、S3	M038	
	41	須恵器	坏蓋	2区 SK01	131			1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	2.5Y5/1	2.5Y5/1	M1、S3	M039	
	42	須恵器	坏B	2区 SK04		76		1/3	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y7/1	2.5Y7/1	L1、M2、S2	M042	
	43	須恵器	坏蓋	2区 SK05	135			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y5/1	5Y7/1	M1、S3	M044	
	44	須恵器	坏	2区 P02	156			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	10YR5/1	10YR6/1	L1、M1、S3	M045	
	45	須恵器	坏B	2区 P05		99		1/4	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y6/1	2.5Y6/1	M2、S3	M046	硬質用？
	46	須恵器	坏A	2区 P09	116	80	29	1/8	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	5Y7/1	5Y7/1	M1、S3	M047	
	47	須恵器	坏B	2区 P27		70		完	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	5Y6/1	5Y6/1	M2、S2	M048	覆込みに集
	48	須恵器	盤	2区 P29	160			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y6/1	5Y6/1	M1、S3	M049	
	49	土師器	釜	2区 P30	123			小片	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/3	7.5YR7/2	M1、S2	M050	

第9表　出土遺物観察表2

図版番号	掲載番号	種別	器種	出土地点	口径 mm	底径 mm	器高 mm	遺存値	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	胎土	実測番号	備考
3	50	土師器	釜	2区　P31	137			小片	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3	10YR5/3	M2、S2	M051	
4	51	須恵器	高坏	2区　P32				小片	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y4/1	5Y6/1	L1、M2、S3	M052	
	52	須恵器	坏A	2区　P46		95		1/6	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	10YR7/2	10YR7/2	M1、S2	M053	
	53	須恵器	坏A	2区　P47	122	97	36	1/2	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y7/2	2.5Y7/2	L1、M1、S3	M054	
	54	須恵器	坏蓋	2区　P48	167			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	5Y4/1	5Y5/1	M1、S3	M055	
	55	須恵器	坏B	2区　P50		70		1/6	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	5Y5/1	5Y5/1	L1、S2	M056	
	56	須恵器	坏A	2区　P59	131	100	32	1/3	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y7/1	2.5Y7/1	M1、S2	M057	
	57	須恵器	坏A	4a区　SD03	126	90	32	1/2	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	7.5YR7/3	7.5YR7/3	M1、S2	M058	
	58	須恵器	坏A	4b区　SD07	136	105	31	1/4	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	10YR7/1	10YR7/1	M1、S2	M059	
	59	須恵器	坏A	4b区　SD12		85		1/4	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y7/2	2.5Y7/1	M2、S3	M060	
	60	須恵器	坏	4a区　P03	106			1/8	ロクロナデ	ロクロナデ	10YR5/1	10YR6/1	L1、M1、S3	M062	
	61	土師器	鍋	4b区　P23	122	70	33	1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	10YR4/1	2.5Y5/1	L1、M1、S2	M064	内面黒色処理
	62	須恵器	坏A	4b区　P24	127	71	30	完	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	7.5YS/1	2.5Y7/2	L1、M1、S2	M065	
	63	須恵器	坏A	4b区　P24	137	83	26	1/2	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	2.5YR8/2	2.5YR8/1	L1、M1、S2	M066	
	64	須恵器	蓋	4b区　P24	183			1/4	ロクロナデ	ロクロナデ	2.5Y6/1	2.5Y6/1	L1、M1、S2	M067	
	65	土師器	鍋	4b区　P24	134			小片	ロクロナデ	ロクロナデ	10Y R8/3	10YR3/1	M1、S3	M068	内面黒色処理
	66	土師器	釜	4b区　P24	134			小片	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR3/1	5YR3/1	M1、S3	M069	
	67	須恵器	坏B	4b区　P30	156	111	62	4/5	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	2.5Y5/1	2.5Y5/1	L1、M2、S2	M070	
	68	土師器	釜	4b区　P36	233			小片	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/3	7.5YR5/3	M2、S3	M072	
	69	土師器	釜	4b区　P36	137			1/7	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/3	10YR6/3	L1、M2、S2	M073	
	70	須恵器	坏A	4b区　P38	132	83	37	1/4	ロクロナデ、底面ヘラ切り	ロクロナデ	10YR8/3	10YR7/4	L1、M1、S2	M071	

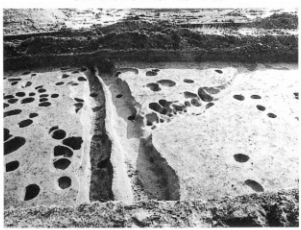
注記　法量の数値は遺存値の項目に「完」とない場合はすべて復元径である
遺存値に示した数値は、実測図に表された範囲内での遺存値であり、器形全体に対するものではない
須恵器・土師器の器種名は小松市教育委員会2006～2010『頭見町遺跡Ⅰ～Ⅴ』を参考にした

調整　「ヨコナデ→ケズリ」であれば、ヨコナデを行ったのちケズリを行っていることを示す
併記の場合は同一器面で調整が異なる場所があることを示す
色調　『新版　標準土色帳』に準拠
胎土　アルファベットは鉱物粒子の大きさ。S（径1mm以下）M（径1～3mm）L（径3mm以上）
数値は鉱物粒子の量。0（ほとんど含まない）1（少量含む）2（やや多い）3（多い）

西側調査区全景（西より）

調査区西半全景（東より）

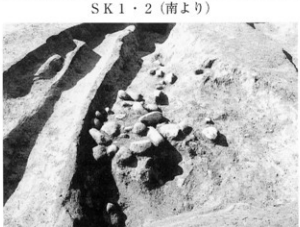
調査区東側全景（東より）


調査区西半溝状遺構群（北より）

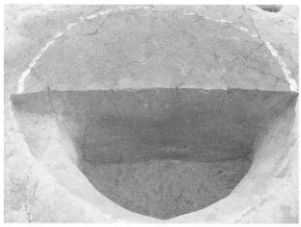
調査区中央溝状遺構群（北より）

ＳＫ１・２（南より）

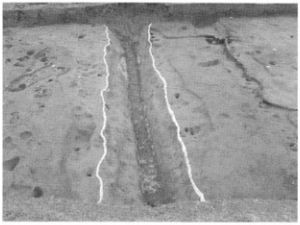
調査区東半　古代北陸道側溝（東より）


古代北陸道側溝攪乱状況（東より）

ＳＢ０１完掘状況（南から）

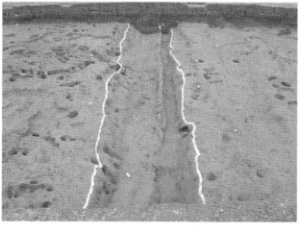


ＳＫ０１土層断面（南から）

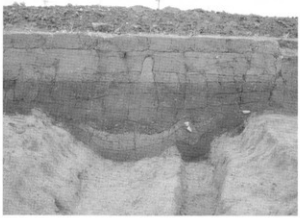


ＳＤ０４完掘状況（西から）

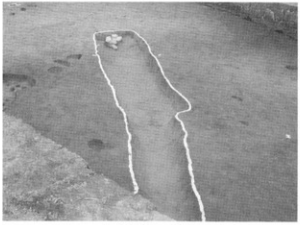
ＳＤ０４西側土層断面



ＳＤ０５完掘状況（西から）



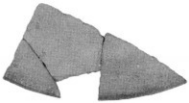
ＳＤ０５東側土層断面



ＳＤ０６完掘状況（南西から）

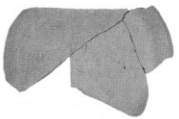
遺構完掘状況（北西から）

1



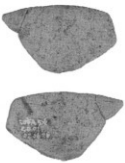
2

4

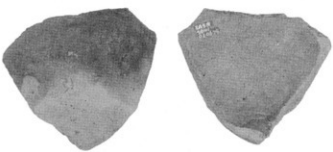


3

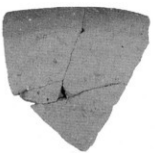
5



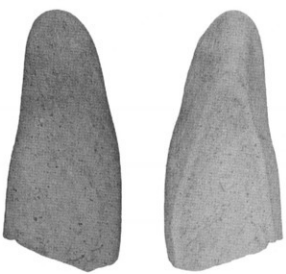
6



7

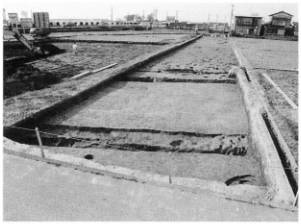


8

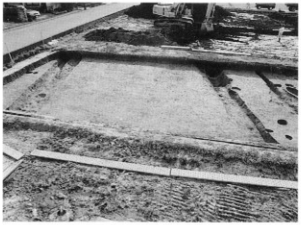


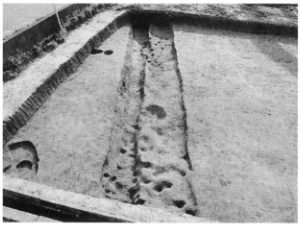
9

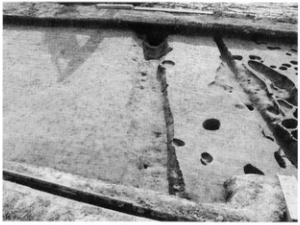
10

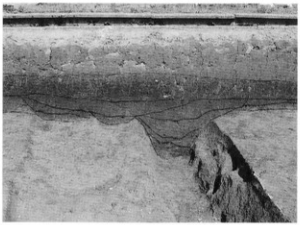

調査区全景（南西より）

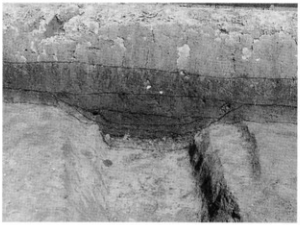
調査区中央全景（南西より）


古代北陸道完掘状況（北東より）


ＳＤ０１（側溝）完掘状況（東北より）

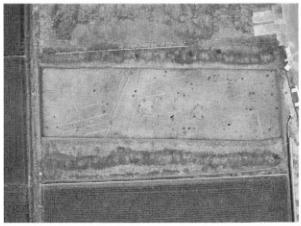

ＳＤ０２（側溝）完掘状況（北東より）

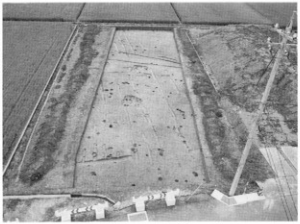

ＳＤ０１東壁面（西より）


ＳＤ０２東壁面（西より）

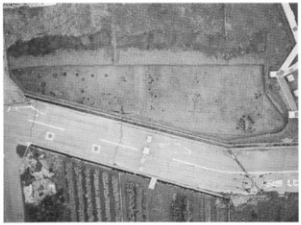
調査区北端溝状遺構（北より）

調査区全景（南西より、下がＣ１区）


Ｃ１区全景（上空より、右がＳＩ01）


Ｃ１区完掘状況（東より）

Ｃ１区完掘状況（西より）


Ｃ２区全景（上空より）

Ｃ２区完掘状況（南より）

Ｃ２区北土坑群（上空より、上が東）

調査区中央～北端完掘状況（南より）

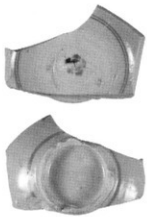
1　2

3

4

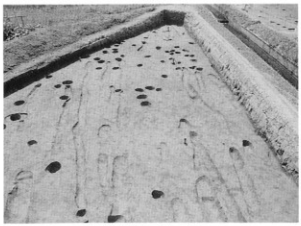
5

6



7

9


1区全景（北より）

3区全景（北より）

3区ＳＢ０１（南より）

3区ＳＢ０２（南より）

中央区全景（北西より）

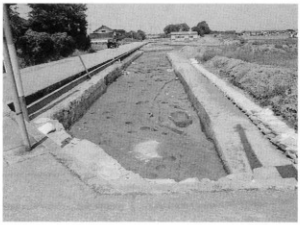
中央区全景（北より）

中央区全景（東より）

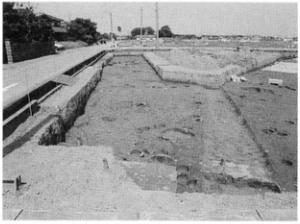
中央区全景（南より）

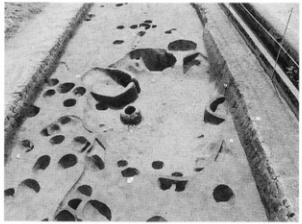
中央区ＳＫ０１（北より）

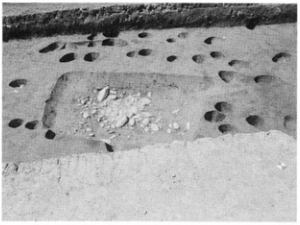
５区全景（北より）


５区全景（南より）

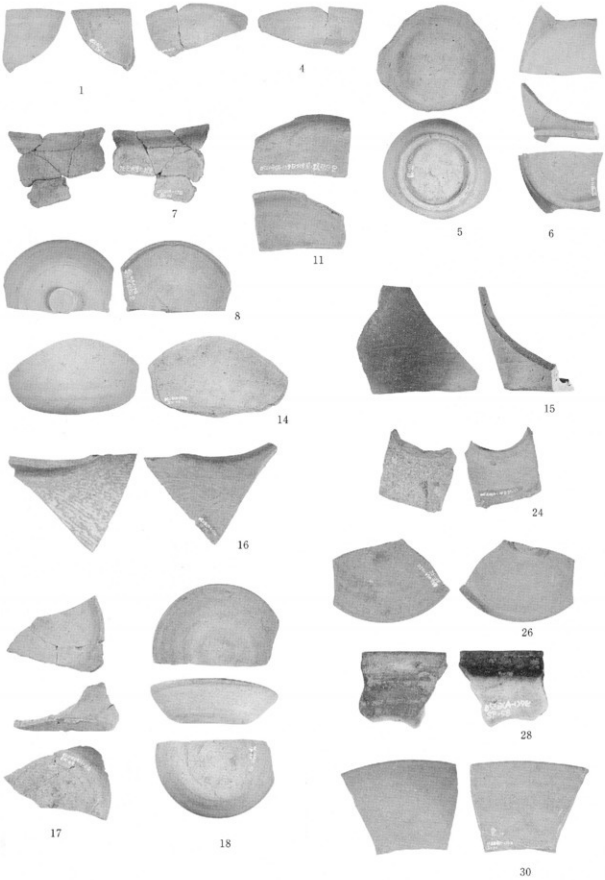
６区全景（北より）

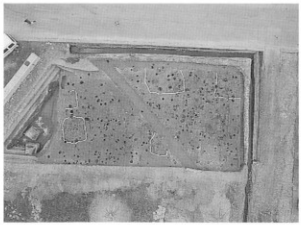

６区全景（南より）


６区ＳＫ０３（北より）

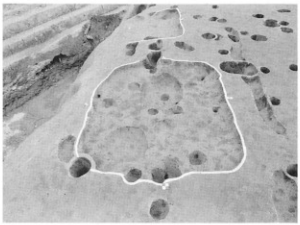

９区ＳＩ０２（南より）

９区ＳＤ０２（東より）


1
4
5
6
7
11
8
14
15
16
24
26
28
17
18
30

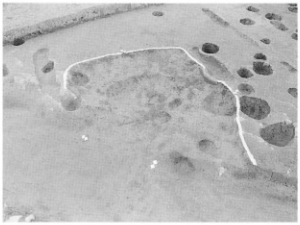


1区全景（上空より、上が北）

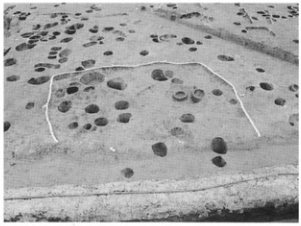


1区ＳＩ０１（北より）

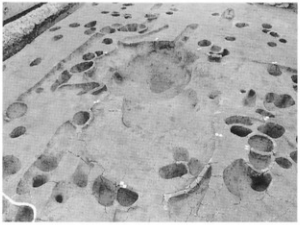
1区旧河道とＳＩ０１・０２（東より）



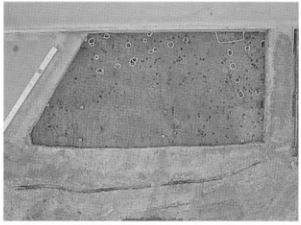
1区ＳＩ０３（南より）



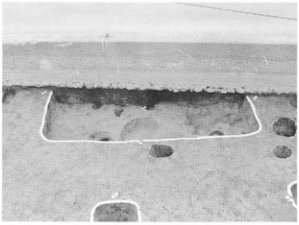
1区ＳＩ０４（南より）



1区ＳＫ２・３（南より）



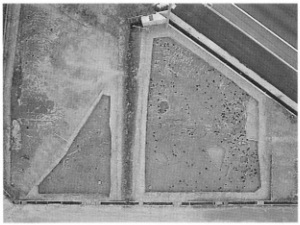
2区全景（上空より、上が北）



2区ＳＩ０１（南より）

2区ＳＢ01（南より）

2区ＳＢ02～04（西より）



3区全景（上空より、上が西）

3区a中央完掘状況（南より）

4区西半全景（上空より、上が西）

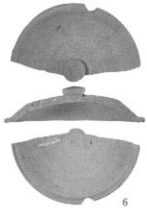
4区西半完掘状況（南より）

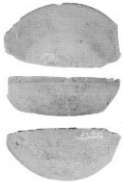
4区東半全景（上空より、上が北）

4区東半完掘状況（南より）

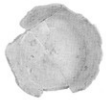
1

10


6

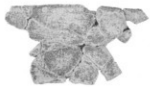

7

8

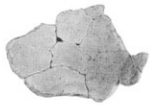


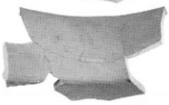
13

14



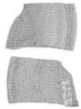
16


18


20

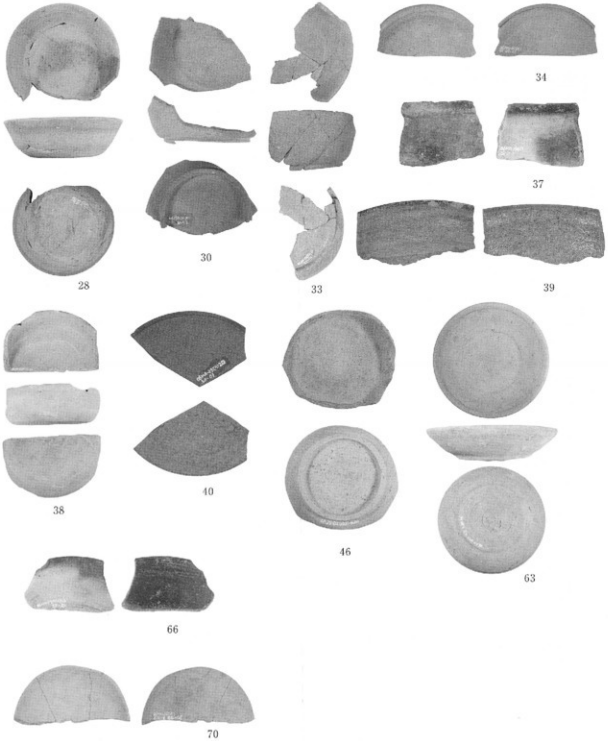
21

22


24

27

遺物写真図版



遺物写真図版

報告書抄録

ふりがな	みっかいちAいせき
書　　名	三日市A遺跡4
副 書 名	
シリーズ名	野々市市北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	5
編集者名	徳野裕子　横山貴広
編 集 機 関	野々市市教育委員会
所 在 地	〒921－8510　石川県野々市市三納一丁目1番地　TEL　076－227－6122
発行年月日	西暦　2012年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
みっかいち 三日市A遺跡 3次調査	いしかわけんのいちし 石川県野々市市 みっかいちまち 三日市町	17344		36° 32′ 2″	136° 35′ 47″	20011108 ～ 20020326	1,200	記録保存 調査
みっかいち 三日市A遺跡 5次調査	いしかわけんのいちし 石川県野々市市 みっかいちまち 三日市町	17344		36° 32′ 2″	136° 35′ 41″	20020509 ～ 20020705	750	記録保存 調査
みっかいち 三日市A遺跡 10次調査	いしかわけんのいちし 石川県野々市市 みっかいちまち 三日市町	17344		36° 32′ 7″	136° 35′ 54″	20030402 ～ 20030507	792	記録保存 調査
みっかいち 三日市A遺跡 11次調査	いしかわけんのいちし 石川県野々市市 みっかいちまち 三日市町	17344		36° 32′ 6″	136° 35′ 44″	20030709 ～ 20030831	550	記録保存 調査
みっかいち 三日市A遺跡 18次調査	いしかわけんのいちし 石川県野々市市 みっかいちまち 三日市町	17344		36° 32′ 8″	136° 35′ 51″	20050414 ～ 20050925	2,256	記録保存 調査
みっかいち 三日市A遺跡 25次調査	いしかわけんのいちし 石川県野々市市 みっかいちまち 三日市町	17344		36° 32′ 11″	136° 35′ 49″	20060412 ～ 20061013	3,451	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
みっかいち 三日市A遺跡 3次調査	集落	古代、中世	道路状遺構(古代北陸道)、土坑、溝	須恵器、土師器、中世土器、石製品	
みっかいち 三日市A遺跡 5次調査	集落	古代、中世	道路状遺構(古代北陸道)、掘立柱建物、土坑、溝	須恵器、土師器、越前焼、珠洲焼、打製石斧	
みっかいち 三日市A遺跡 10次調査	集落	古代	道路状遺構(古代北陸道)、土坑、溝	須恵器、土師器	
みっかいち 三日市A遺跡 11次調査	集落	古代、中世	竪穴建物、土坑、溝	須恵器、土師器、中世土器、近世陶磁器、銭貨、石製品	
みっかいち 三日市A遺跡 18次調査	集落	古代、中世	掘立柱建物、竪穴建物、土坑、溝	須恵器、土師器、中世土器、石製品	
みっかいち 三日市A遺跡 25次調査	集落	古代、中世	掘立柱建物、竪穴建物、土坑、溝	須恵器、土師器、中世土器、石製品	

要　　約	古代の集落跡と古代北陸道を確認した。集落跡は竪穴建物、掘立柱建物などを検出し、古代北陸道は路面の幅は8ｍを超え、両側には側溝も確認した。この古代北陸道に建物主軸を直交させる向きで建てられた石川郡内の駅家の可能性のある建物も確認されている。中世は、集落跡を確認し、掘立柱建物などを検出した。

2012年3月30日　発行

野々市市北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書5

三日市A遺跡4

著作権所有　石川県野々市市三納一丁目1番地

発 行 者　野々市市教育委員会

印 刷 者　石川県金沢市金市町ホ34番地

前田印刷株式会社

三日市Ａ遺跡　遺構全体図①（第10、18、25次）

25次1区

18次1区

25次2区

18次2区

18次3区

18次7区

18次4区

18次5区

18次6区

18次9区

18次10区

18次8区

25次3区b

25次3区a

10次

全体図①

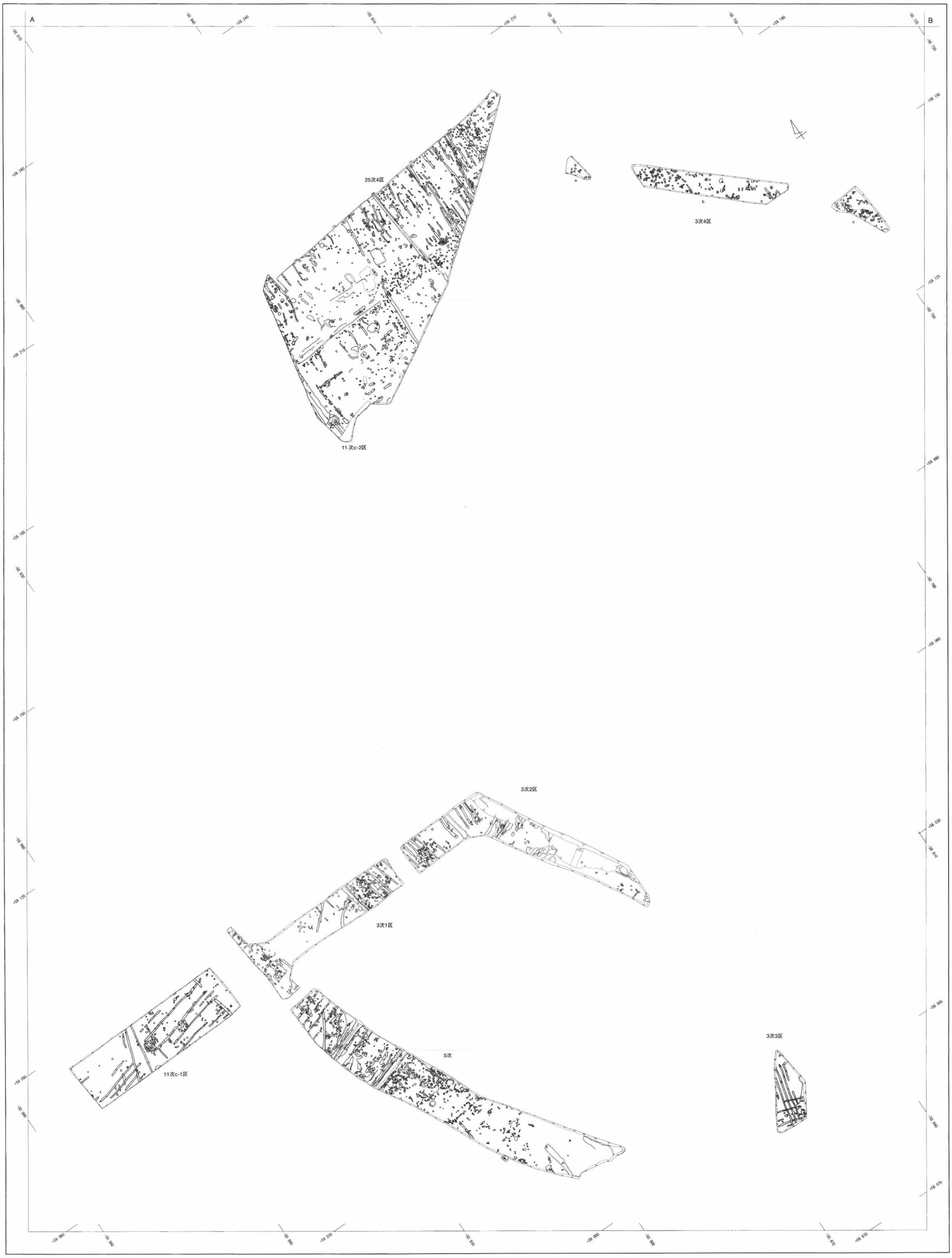
全体図②

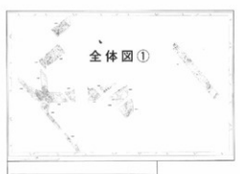
B

1:300

0　10　20　30　60m

三日市Ａ遺跡　遺構全体図②（第３、５、11、25次）





1:300